

---

○ 議事日程（第2号）

1 一般質問

---

○ 本日の会議に付した事件………議事日程に同じ

---

○ 出席議員次のとおり（13名）

1番	塚田一男君	8番	渡辺正男君
2番	湯本るり子君	9番	山本光俊君
3番	白鳥金次君	10番	西宗亮君
4番	山本岩雄君	11番	小林克彦君
5番	湯本晴彦君	12番	徳竹栄子君
6番	布施谷裕泉君	13番	高山祐一君
7番	高田佳久君		

---

○ 欠席議員次のとおり（なし）

---

○ 職務のため議場に出席した議会事務局職員の職氏名次のとおり

議会事務局長	古幡哲也	議事係長	湯本寿
--------	------	------	-----

---

○ 説明のため議場に出席した者の職氏名次のとおり

町長	平澤岳君	副町長	増田隆志君
教育長	柴草隆君	会計管理者	小林一夫君
総務課長 選挙管理 委員会書記長	小林広行君	税務課長	常田和男君
観光商工課長	湯本義則君	農林課長	宮崎弘之君
教育次長	小林元広君	建設水道課長	山本和幸君
危機管理課長	町田昭彦君	消防課長	湯本睦夫君

---

(開 議)

(午前10時00分)

**議長(高山祐一君)** おはようございます。本日はご苦労さまです。

ただいまの出席議員数は13名です。したがって、会議の定足数に達しておりますので、本日の会議は成立しました。

本日の会議に先立ち執行機関に出席を要請してありました者のうち、健康福祉課長から病気療養のため本日3月20日から3月29日までの会議を欠席したい旨、届出があり、これを認めたので報告します。

なお、本日の一般質問に対し、住民環境係長、子ども支援係長、健康づくり支援係長が出席しますので、ご報告いたします。

これより本日の会議を開きます。

---

## 1 一般質問

**議長(高山祐一君)** 本日は、日程に従い一般質問を行います。

質問時間は、1人25分であります。質問者は25分以内に質問を終了するようお願いします。質問時間終了の予告は、終了2分前と終了時に行います。

また、質問は登壇して行っていただき、再質問は質問席で行ってください。

次に、理事者、管理職の皆さんにお願いします。質問に対する答弁は、要旨を十分把握され、簡潔明瞭をお願いします。また、反問権の行使は再質問時に認めます。議員の質問に対し、反問される場合は、必ず発言前に「反問します」と声をかけた上で反問してください。

本日の一般質問は4番まで行います。質問通告書の順序に従い、質問を許します。

5番 湯本晴彦君の質問を認めます。

5番 湯本晴彦君、登壇。

(5番 湯本晴彦君登壇)

**5番(湯本晴彦君)** 皆さん、おはようございます。

5番 創誠会、湯本晴彦です。

世の中は、コロナ禍が収束の雰囲気を見せてきました。その中で、日本政策投資銀行と公益財団法人日本交通公社が実施したアンケートがありました。外国人に対してアフターコロナで一番行きたい国はどこかという質問に、何と日本が1位になっていました。それだけ日本が魅力的な観光地になってきています。

世界一行きたい国になったことを見て、私は観光業が次の日本の基幹産業になるというふうには思っています。なぜなら、今、日本の産業で国際競争力のある産業はほかにあるでしょうか。かつての勢いのあった産業は、軒並み苦戦を強いられております。歴史を振り返ってみてください。戦前は、明治維新以降、日本は紡績で復興を果たしてまいりました。戦後は、自動車や電機など製造業で復興を果たしてきました。このように、時代は移り変わっていくものなのです。

私は、アフターコロナでは観光業が日本経済の牽引役になると思っていますし、観光業しかないとすら思っています。その意味で、山ノ内町が観光業で日本有数の町になっていくことが、町の発展でもあり、日本の発展にもつながると思います。ここで新たな町長が誕生し、町も大きく変わる節目のときを迎えました。新町長には、ぜひ山ノ内が長野県を、そして日本を引っ張るんだという気概を持って町政に取り組んでいただきたいです。

私は、竹節前町長に育てていただきましたが、いろいろな面で勉強させていただき、8年間真剣に町のことを考える機会をいただきました。今回、この8年間の思いを一般質問に乗せさせて質問をさせていただきたいと思います。

それでは、早速通告書に従い質問します。

1、経済活性化について。

(1) 町長の公約で、流入人口を5割増とする根拠と戦略は。

(2) いつまでに達成する目標を描いているか。

2、観光活性化について。

(1) 観光活性化のためのポイントは何か。

(2) どこに選択と集中をすべきか。

(3) トップセールス以外に重点を置くことは。

3、小学校1校統合について。

(1) 新町長が立ち止まるという公約を出しているが、これを教育委員会としてはどのように受け止めているのか。

(2) 町長は小学校1校統合論において、何を中心に置いて展開を考えているのか。

(3) 町長は、現在ここまで1校統合で話が進んでいることに対して、それでも立ち止まるのか。

(4) 公約に上げている子育てしやすいまちづくりとは。

4、開かれた町政について。

(1) 住民との意見交換の進め方は。

(2) 2050未来会議の中身とは。

(3) 町職員に対しての関わり方は。

(4) 職員の負担軽減は。

以上、再質問は質問席にて行います。

**議長（高山祐一君）** 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

**町長（平澤 岳君）** おはようございます。

湯本晴彦議員のご質問にお答えいたします。

経済活性化についての1、(1) 町長の公約で流入人口を5割増やすという根拠と戦略はに

ついてですが、まず流入人口という意味ですが、私は町に新たに入ってくる人口という意味で口にしておりましたが、通常、通勤通学で入ってくる人口という意味合いもあるようです。ですので、私の意味するところは、新しく町に入ってきて住むようになる人口という意味で捉えていただければと思います。

現在、200人から300人で人口減少が続いています。出生と死亡の差が令和3年度、令和4年度ともに180人前後で推移しています。転入転出は、多い年でマイナス200オーバー、少ないときでもマイナス二桁です。出生と死亡の差を埋めることは人為的にはできませんので、転入転出の数字をまず逆転させること、その後、数年かけてプラス100、200にしていくことです。安定してプラス200にできれば、全体での人口減を止めることが可能だと思っています。

転入転出の要素というのは様々だと認識しております。子育て支援は山ノ内町は手厚くしておりますが、住む人が増えていないのが現状です。それには必ず理由があると思います。私が思うには、子育てで山ノ内町を選んでもらうためには、居住環境、働く場所などの就業環境が重要で、それに加えて教育環境を向上させることが必要であると思っています。ですので、子育て支援だけではこの数字は改善しませんので、多角的な政策で人口増を目指したいと思いません。

ちなみに、白馬村はこの15年間、ほとんど人口に変化がない状態です。このままいくと、統計上ではありますが、早ければ2045年に白馬村の現在の人口よりも山ノ内町は下回りますので、今から手を打たないと間に合わないと思っています。

(2) いつまでに達成する目標を描いているかについてですが、実施するにも時間がかかりますので、数年かかるような内容ばかりですので、1つの目安としては、転入転出の差がプラス50人を上回るというのが5割増しというレベルだと認識をしております、早ければ2年後、遅くとも4年後には達成させたいと思っています。

続きまして、2の観光活性化についての(1)観光活性化のためのポイントは何かについてですが、まずは町内の観光産業が一丸となることだと思います。観光連盟、観光協会、旅館組合、索道協会、町の観光商工課、旅館の女将の会など、関係する方々がしっかりと手をつないで同じ方向に向いて、国内外への営業、マーケティング、PRだけではなくて、町内の駅前の景観改善や町並み改善、空き家対策に町政と町民が一丸となって取り組む必要性があると思っています。

どこに選択と集中をすべきかについてですが、スキー場をしっかりと維持更新できるようなサポート体制をつくるべきだと思います。スキー場には、ホテルなど様々な産業が紐づいていますので、志賀高原、北志賀高原のスキー場産業にはある程度集中しなければならないと思っています。それにプラスして、山ノ内町にスノーモンキー目当てで来る約25万人の観光客の方に、どのような形で志賀高原や湯田中、渋温泉、北志賀高原、あと山ノ内町で生産されているリンゴ、ブドウなどの農産物のことを伝えていけるのかということを考えており、帰りに立ち寄れる道の駅の機能だけではなく、来た方にしっかりと町をPRする方法を考えて

具現化していきたいと思っています。

トップセールス以外に重点を置くことについてですが、トップセールス自体は次につながる施策だと思っています。先に申したように、既に来ている方々への情報提供や、目的以外の新しい体験を提供するようなおもてなしの充実を町ぐるみでつくるべきだと思っています。

続きまして、3の小学校1校統合についての(1)新町長が立ち止まるという公約を出しているが、これを教育委員会としてはどのように受け止めているのかについては、後ほど教育長に答弁させます。

(2)の町長は小学校1校統合論において、何を中心に置いて展開を考えているのかについてですが、魅力のある教育を山ノ内町につくりたいと思っています。今、世の中は変化してきており、例えば宮城県にも宮野森小学校という、校舎の設計からコンセプトまでしっかりと練られた学校があり、自然との融合と、町の歴史とストーリーをしっかりと継承したつくりになっており、話題になっています。1学年が17人から28人で、決して大きな学校ではありませんが、教育内容と教育環境を充実させることで魅力のある学校をつくることは可能だと思っています。学校適正規模という言葉がありますが、国の教育方針も少しずつ変わってきている側面もあり、学級適正規模で検討することも可能かと思えます。あくまでも、教育と町の経済の両面でしっかりと学校のことを考えていきたいと思っています。

(3)の町長は、現在ここまで1校統合の話が進んでいることに対して、それでも立ち止まるのかについてですが、私の立ち止まるという意味での言いたかったことは、今止めるということではなくて、焦って進めるのではなく、本当に学校を1つにすることがよいことで、それ以外の方法がないのか、もしかしたら少人数で充実した教育ができる学校と、大人数で受ける教育というチョイスがあってもいいのではないかと、もっと町民を巻き込んだディスカッションがあってもいいのではないかとと思っています。あくまでも、若い世代が山ノ内町に移住したくなるような魅力のある町にすることが今回の目的です。

(4)の公約に上げている子育てしやすいまちづくりについてですが、現在、不登校の子供たちをケアする子育て支援センターがないとか、スポーツ施設がないとか、現状は決して子育てしやすい環境とは言えない状況だと、直接現在子育てしている方々から聞いております。子育てしている方々の日々の生活をどうサポートするのかというのが子育てしやすいまちづくりだと思っています。子供を産んだからいくら町からお金を出しますというそれだけでは、子育てしやすい町とは言えませんので、実際の現状をもっとしっかりと聞き取り、それで町としてどのように改善していけるのか、職員と一緒に考えて改革していきたいと思っています。

4の開かれた町政についての(1)住民との意見交換の進め方についてはですが、定期的に町民説明意見交換会というものを開催したいと思っています。その企画をつくるように、既に職員には指示を出しております。私のイメージとしては、町の数か所、公民館などで、町の方々が集まりやすそうな時間帯で、4か月から半年に1回ぐらい、町の広報紙などでも案内しながら開催していきたいと思っています。基本的には、誰でも参加できる会にして、町からは、

現状の町の財政の状況や現在行っている政策、企画、イベントなどの説明を私自ら行い、参加いただいた町民の方々からも意見などを言っていただいて、それを聞かせていただくという会をイメージしております。

(2)の2050未来会議の中身とはについてですが、こちらは町内外の有識者やブレインを集め、山ノ内町の未来を話し合い、新しいアイデアなどを町政に反映させるための会議をイメージしております。山ノ内町以外の市町村でも、様々なよい施策を実行されている自治体がありますので、それらを勉強することも必要ですし、国や県の関係者、経済界の方も入れて、山ノ内町の発展に知恵を出していただくような会議をイメージしています。

町職員に対しての関わり方についてはですが、新人町長ということで、職員にも苦勞をかけることが多いと思いますが、なるべく早く職員一人ひとりを把握し、皆でモチベーションを高めて、チーム一丸となって働けるような環境づくりをしていきたいと思っています。

(4)の職員の負担軽減についてはですが、職員の働き方改革も進めないといけないと思っていますので、外部のマンパワーを導入したり、デジタル・トランスフォーメーションも進め、職員の負担軽減をさせつつも、より質の高い町民サービスを行っていきける組織づくりをしていきたいと思っています。

以上でございます。

**議長（高山祐一君）** 柴草教育長。

**教育長（柴草 隆君）** おはようございます。

湯本晴彦議員のご質問にお答えをいたします。

3の小学校1校統合について、(1)新町長が立ち止まるという公約を出しているが、これを教育委員会としてはどのように受け止めているのかとのご質問ですが、小学校の統廃合については、これまで長い間の検討、議論があり、昨年3月に山ノ内町立小学校適正規模及び適正配置に係る基本方針を策定し、その中で、今後の具体的取組の1点目として、3小学校の統合位置は山ノ内中学校敷地とし、統合小学校整備計画の設定及び会計年度の決定をする、2点目、小中連携教育をさらに推進することとし、山ノ内町の魅力、特色を活かした教育の在り方を検討する、3点目、(仮称)統合準備委員会を設置し、課題の検討、整理を行うとともに、円滑な統合に向けた準備を進めるの3点を確認し、この方針に基づき、令和4年度は委員21名で構成する山ノ内町立小学校統合準備委員会を設置し、統合小学校整備計画の策定に向けて前向きかつ熱心に検討いただいております。この間関わっていただいた多くの皆様の思いを大事にしながら、未来ある子供たちにとってよりよい教育環境を整備するために、今後、整備計画案を基に、保護者の皆様や町民の皆様との懇談会を開催していく計画であります。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** それでは、再質問させていただきます。

まず、経済の活性化についてなんですけれども、町長は流入人口を増やしていくというところ

ろに関して、どんなところを一番ポイントに置いて戦略というんですかね、そこを考えていらっしゃるのでしょうか。そこからまず教えてください。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 流入人口の増やし方だと思うんですけども、まずは職場環境をつくるということで、新しい雇用を生み出さないといけないと思っています。あと、住むところというところでも、山ノ内町は非常に賃貸物件が少ないですとか、土地の売りに出ている場所が少なかったりしますので、移り住みやすいような環境づくりというものがどうやったらできるかということを職員とも一緒に考えながら進めていきたいと思っています。雇用を増やすということは、やはり企業誘致ですとか、新しいホテルですとか、そういった新しい経済を生み出さないといけないと思っていますので、すぐにできるわけではないと思いますが、その両面で住むところ、働くところというものを充実させたいと思っています。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** 新しい会社を呼び寄せるとか、新しい起業ということですけども、既存の観光地とか既存の会社についてはどのようにお考えですか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 既存のホテルですとか企業にとっても、企業はまた季節雇用は少ないと思いますけれども、ホテルに関してはやはり季節雇用者が多いというところで、いかに通年働けるような環境をつくれるかということも一つのテーマだと思っていますので、通年働けるようなホテル業態にするためには、それに伴う町の経済的なところでも通年観光として観光客を増やさなきゃいけないと思っていますので、それに伴うスキー場の通年運行、例えば竜王のSORA terraceのような、志賀高原のほうでも夏どうやったら、春夏秋にお客様を呼べるのかということも町のほうでもサポートさせていただきながら、いかに町中の、志賀高原含めた山ノ内町にあるホテルが通年稼働できるようにするかということにサポートしていくというのも一つの手だとは思っております。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** 私もかねてからオフシーズン対策というのがテーマだと思ってきております。人口増を考えると、季節雇用ではなくて、季節雇用ではオフシーズン、仕事がなくなったら帰ってしまうということで、定住にはつながらないんですね。定住して子孫を残してこそ人口増となると思います。そのためには、通年雇用ができ、通年で仕事があるという状態をつくっていかねばいけないと思うんですね。その全町的に通年化していくためには、特にどの時期が大事だと思われませんか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** そうですね、通年稼働させるためにはということなんですけども、やはり主に夏休みはもちろんなんですけれども、それぞれの休みのある春、ゴールデンウィーク、秋の休みなどにもしっかりと焦点を当てて、あとはなかなかやっぱり日本人の休みの取り方という

面では週末に集中してしまうところがありますので、引き続きテレワークができるような環境整備などをして、いかに様々な事業が通年、春夏秋も行われるようにするというのが重要かと思っていますし、もう一つは、農業のほうでも労働人口不足というものが言われていますので、町のほうで何かしらマッチングシステムみたいなものをつくって、夏は農業で働きたい人、冬はホテルで働きたい人みたいなものをマッチングするような、アルバイトのマッチングシステムみたいなものが既にあるようですけれども、そういうものをしっかりともっと活用して、いかに通年通じて山ノ内町に住んで働ける環境をつくるかということは模索していきたいと思っています。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** 私は、全町的にオフシーズンになる時期というのが、ゴールデンウイーク明けから7月の中旬までというふうに思っています。夏は夏休みで結構林間学校や、また秋は紅葉もございますので。そうすると、全ての政策をこのゴールデンウイーク明けから7月に集中していくように持っていくことが政策として効率がいいのではないかと思うんですね。例えば、社会体育館を解体して、今、湯田中温泉公園ということでこれから計画を立てていくわけですが、ここを6月の名所にできたら宿泊につながるかもしれません。また、町で行っている各種イベント、これらをこの時期に集中できたら、それだけでも宿泊は助かると思うんですね。花火なんかもそうです。夜のイベントは宿泊が伴いやすいので、非常に宿泊という意味ではいいと思うんです。オンシーズンの忙しいときにイベントをやるのではなく、オフシーズン対策の一つとしてイベントをやったほうがいいと思うんですね。特に6月はネマガリダケがあったり、サクランボがあったり、食も特色を出せるというふうに思います。スキー場や山を使ったイベントを増やすことで、この時期のスキー場もオフシーズン対策になっていくのではないかと。また、山開きとか新緑祭とかも、このときではやっているんですね、民間で。これらをうまく統合していだけで、そんなにすごい大ごとにしなくても、外部のお客様がこの時期にもっと来られるんじゃないかというふうに思うんですけれども、その辺に関してはいかがお考えでしょうか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 今のゴールデンウイーク明けから7月に集中させるというお話ですけれども、非常にいい話だと思います。世界的にどこのリゾート地でも、オフシーズン対策というのはなかなか苦戦しておりまして、例えばフランスでも有名なシャモニーですとか、カナダで有名なウィスラーとかも、結局オフシーズンというものは絶対ありまして、春先のいつときと秋口のいつときというのは比較的閑散としていて、夏、冬に集中するというので、それぞれの自治体も確かにオフシーズンはどうするかということはテーマになっていますので、先ほど湯本議員がおっしゃっていただいた食のイベントを行うとか、町のイベントをそういうところに絡ませてくるということは非常にいいアイデアだと思いますので、我々も前向きに検討していきたいと思います。



議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 私は、端的に言うと、この1点に尽きるような気がしているんですね。観光が活性化していくためには、やはり来るときは仕事があって、もうかります。でも、お客さんが来ないときにどうするかというところが一番の問題であり、通年雇用して正社員が増えていく、これがやっぱり定住化のポイントになると思うんですね。そうすると、やはり人口増につながると。実は、農業もそうなんです。農業も季節変動が大きいので、こういったところを平準化していくためにどうしていくかというところに頭を使っていくことが大事じゃないかなというふうに思います。

それと、もう一つ言いたいのが、季節雇用ではなく通年雇用を増やそうとする経営者を増やすこと。この点についてはどうでしょうか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そうですね、通年雇用をする経営者を増やすということについても、確かに湯本議員のおっしゃるとおりだと思いますので、どうしたら通年雇用できるかとか、そのときのメリットですとか、あと本当にそれでもやはりどうしても暇なときというのは発生してしまうと思いますので、そういうときの活用方法ですとかということも踏まえて、町のほうでも例えばセミナーを開催するとか、いつか従業員を貸し合うような制度ですとか、そういうシステムみたいなものがつくれたら、そういうことが可能になっていくんじゃないかと思いますので、ぜひそれも進めていきたいと思います。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） ぜひそういった新卒採用とか組織経営ということをしていく経営者を増やすための啓発活動をしていただきたいなというふうに思います。

そのために、今度、町長もおっしゃっていましたが、住宅整備、ここも大事だと思うんですね。ホテルや旅館業では、やはり寮というのが必要になってきます。そうすると、この辺の住宅整備ですね、こういった面での支援とか、そういうことをしていくことで、なかなか空き家対策といっても、新しく移住する人が簡単に空き家に住むかということ、ちょっと難しいと思うんですよ。ただ、寮となると、少しやりようがあったりするかもしれません。また、そこら辺の支援というのがあることで、こういった組織経営をしていこうというふうに考えている経営者がどんどん増えていく可能性もあると思うんですね。そういった点はいかがでしょう。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今、町のほうでも、アパートをつくる、寮をつくる方に対して、事業者、個人に対しての補助金的なものを検討しておりますし、新しく家を建てる、もしくは住宅地を新しく開発する事業者に対しての補助というものも今検討して、これから始めていこうと思っていますので、その辺も引き続き、確かにおっしゃるとおりサポートしていかないと、なかなか住む場所が増えないということになると思いますので、その辺は力を入れてやっていきたいと思っています。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 新卒採用とか組織経営をしていくような経営者がいたら、そういう人たちの声を聞いていただいて、ぜひ住民が増えていくような、そういう形を取っていただきたいと思うんですね。これはやはり戦略だと思うんです。オセロゲームで勝つためには、皆さんどうしますか。恐らく角を取りにいこうと思うんですよね。それが戦略だと思うんです。勝つための要諦を持たずして政策を行っていったら、ただの徒労になっちゃうと思うんです。沈み行くタイタニック号ですね。一生懸命水をかいても、それが本当に徒労に終わってしまいます。ですので、1つの政策が2つにも3つにも、一石二鳥でも三鳥でもつながっていくように政策を考えていく、これがやはり戦略だと思うんです。そのために、オフシーズン対策、そして通年雇用や通年営業をしていく、そしてその経営者を増やしていく、これがオセロの角を取ることになるんじゃないかなというふうに思います。

その意味で、観光活性化について進みたいと思うんですが、町長はトップセールスの前に、既に来る人への発信とかそういったところを話していらっしゃいましたけれども、町長として、認知を上げていくためにどのようなことをやっていこうというふうに思っていますか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そうですね、国内外に向けて山ノ内町を認知させるということですが、これはなかなか難しい問題ではあるんですが、山ノ内町の特に英語のホームページというものが少し分かりづらいという気はしております。観光協会、山ノ内町の観光連盟、そういったところがバラバラに今つくっているという状況だと思いますので、なるべく情報発信をするポータルサイトとしっかりと、いわゆるキュレーションサイトと言われるような、山ノ内町を案内できるようなサイトをしっかりと1個真ん中に立てて、インターネット上でもしっかりと分かりやすい情報発信をしていくというふうに心がけなければいけないと思いますし、海外に認知させるというのは、今、SNSを使ったやり方も非常にありますが、一番効果的なのは、来た方がSNSを使って発信していただくということが非常に重要ですので、そのためにも景観をしっかりとよくしていかなければいけないと思っています。

先ほどお話したように、トップセールスをして世界中に山ノ内町を知ってもらいたいということも重要だと思うんですが、やはり来た方が、山ノ内町に実際来て、また来たいなと思ってもらえるような、そういうまちづくりを細かいところからしていかないと、次につながらないと思いますし、SNSの発信につながらないと思いますので、まず認知させるというのは、もちろんインターネットを使ったいろいろなところで目に留まるような対策をするということが1つと、しっかり来た方がもう一回来なくなる、もしくはその方が友達に教えなくなるような、そういうまちづくりをしていかなきゃいけないなと思っています。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） その中で、じゃ発信したくなるようなネタづくりというんですかね、そう

いうふうに考えたときに、例えば志賀高原、湯田中渋、北志賀というふうに、従来は3観光地という形で売り出していたのですが、それについてはどのようにお考えですか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** まず、観光客の方が入ってくるルートなんですけれども、電車で来る方は湯田中駅、車で来る方は中野経由でオリンピック道路、もしくは草津から来たりですとか、飯山駅のほうから来る方もいらっしゃると思うんですが、両方の、車と電車で、両方で来る方にしっかりとそういう、まず第1歩目入ってきたときに、あ、山ノ内、ちょっといいところだなと思ってもらえるような景観づくりを少し心がけたいと思っていますので、1つは湯田中駅周辺の整備ですとか、湯田中から渋のほうに延びる道の整備、例えば景観、例えば小布施のような町並みづくりということが本来はできればベストだと思うんですが、そのためのいろいろな方法も必要になってきますので、しっかりとまず見た目も含め、どこが、実際観光客になった目線で、しっかりと湯田中駅に降り立ったところから、どういう雰囲気づくりがあれば山ノ内町としてまた帰ってきてもらえるのかというところを押さえたいと思っていますし、志賀高原は志賀高原で、やはり山の駅などをしっかりと活用して、情報発信を含め、山のことを伝えていくですとか、遊歩道の整備をしっかりと行う、木を使ったような雰囲気づくりをしっかりと行うとかという多面的なところでやっていく必要があると思うんですが、まずはやはり1歩目、玄関口の道の駅ですとか湯田中駅のまず第一印象というものをしっかりとつくっていきたいと思っています。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** 小布施の話が出ていましたけれども、小布施に来たときに、ああ、小布施に来たなという感じがあると思うんですが、山ノ内に来たときに、山ノ内に来たなというよりは、湯田中に来たな、渋に来たな、志賀に来たな、北志賀に来たなみたいな、そんな感じだと思うんですね。私は、これはいろいろ賛否両論あると思うんですが、1つの大型リゾートとして、全体を1つのコンセプトにまとめていく、そういうほうが発信がしやすいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** そうですね、やっぱり小布施のまちづくりというのは非常に効果的で、今も効果を上げていると思っています。ただ、山ノ内町に関しましては、志賀高原と湯田中渋温泉、あとスノーモンキー、北志賀という、大分変わった色を持っている観光エリアというふうに認識していますので、私の個人的な意見としては、それぞれの特色をしっかりと活かしていくという雰囲気づくりが必要ですので、その玄関口としてはしっかりと湯田中駅前、例えばこの前、私自身が湯田中駅前で会った外国人から今日は祝日かと言われて、平日だったんですけども、何でと聞いたら、店がみんな閉まっているというふうに言われましたので、まずそういうふうなマイナス的に思われないようにするということが最低限必要だと思っていますし、その上で、私としては、温泉街は温泉街の風情があっていいと思いますし、それが売りになる

と思いますし、志賀高原は高原としてのやはり自然に溶け込んだ調和したような景観があつて、それが売りになると思いますし、北志賀はまた少し別の形でのリゾートとしての雰囲気づくりというものをすべきだと思っていますので、それぞれがしっかりとした雰囲気づくりをして、その入り口であり全体を取りまとめるというところの山ノ内町ということで私としては進めていきたいと思っています。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 例えば、ディズニーランド、思い起こしてほしいんですが、ディズニーランドの中にスペースマウンテンがあるとか、ビッグサンダーマウンテンがあるとか、カリブの海賊があるとかという、いろいろあるなというのと、スペースマウンテンだけあります、ビッグサンダーマウンテンだけあります、カリブの海賊だけありますというのと、どっちが魅力的に感じますかね。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 確かにおっしゃるとおり、ディズニーランドなんかは統一した雰囲気づくりをしつつも、それぞれの特色をつくっていると思いますので、もちろん山ノ内町としてもそういう雰囲気づくりをまず入口からしていくということは必要だと思いますし、そのエリアに入ったら、その特別な雰囲気があるというようなところが重要だと思いますので、あくまでも、例えば本当にユニバーサル・スタジオ・ジャパンでも、ハリーポッターのところに入ったらハリーポッターの世界観に入りますので、それは志賀高原に入ったら志賀高原の世界観に入るところでいいんじゃないかと思っております。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 町として、やはり全体をアピールしていく意味では、町の全体のコンセプトを統一というか、何か出して、それを発信していく形のほうが、私は効率がいいというふうに思っております。それだけじゃなくて、ほかのメリットとして、補助金とかが取りやすくなるというのがあると思います。また、世界遺産等までいかななくても、例えば日本遺産という認定があるんですが、それはご存じでいらっしゃいますか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 申し訳ありません、日本遺産というのがどこのことを指しているのか、大変勉強不足で知らないんですけれども、ユネスコエコパークなどの認定をされていることは存じていますが、日本遺産がどこかということは、すみません、分かりません。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） おっしゃるとおり、日本遺産というのは、日本でそういう登録はあるんですが、知られていません。ブランド化としての力はないんですけれども、これは文化庁がやっている政策なんです、文化庁は文部科学省です。ですので、観光庁などの国土交通省とはまた別の補助金になりますので、水路がいろいろと増やせるというメリットがあります。また、今年の予算に出ていましたが、街なみ環境整備事業というのがありますが、これは歴史的風致

維持向上計画というものを、まあつくっていくかどうか分からないですが、そういうことでつくっていくことで、これはその文化庁の日本遺産登録にもつなげられるものなんですね。ですので、いろいろな水路を確保ができるというメリットがあるのと、もう一つ、全体をまとめていくという意味では、滞在時間もそのほうが長くなるんじゃないかなというふうに思っています。1泊よりも2泊、この町内で、湯田中で泊まったら志賀でも泊まる、北志賀でも泊まるというふうに、少しでも滞在時間を町の中で増やしていただく。同じ1泊でも、翌日のお昼は、じゃ須賀川のそばを食べて帰ろうとか、1泊2食で終わっていたのが、町内で1泊3食、4食というふうにしていくことで、少しでも町内にお金が落ちるといふふうに思うのですが、その辺、そういう意味でも全体をまとめていったりしていくというのは有効じゃないかなと思うんですが、町長はどのようにお考えでしょうか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 確かに、どのような形で本当に1泊でも多く、もしくは立ち止まっているいろいろなレストランを使っただけとか食堂を使っただけということで、そのためのやはり情報発信というものをしっかりとしなければいけないと思いますし、先ほどおっしゃった統一のイメージ感を持つということに関してですが、なかなかやはり志賀高原と湯田中渋温泉というのも雰囲気は全然違いますし、旅館の規模やそもそものコンセプトが違う中で、なかなか同じ雰囲気づくりをつくるというのは難しいとは思いますが、例えばリンゴというような共通テーマを全てに持たせて、いろいろなレストランとかホテルがリンゴをテーマにしたいろいろな提供するものをつくって話題性をつくるとか、そういう山ノ内ならではのしっかりとした統一感というものは、ある意味つくれるんじゃないかと思っていますし、あとはやはり先ほどおっしゃっていた、本当に1食でも1泊でも多く滞在してもらいたいということに関しては、非常に私も賛成ですので、それをするためにはどうしたらいいかということで、しっかりと情報発信、伝達ということ、いらっしゃるお客様、観光客の皆様はどうやってしっかりと伝えられるのかということ、例えば湯田中駅に関して、湯田中駅での情報発信の仕方をしっかりと工夫して、たまたま別の目的で来た、スノーモンキー目的で来た方にも温泉に入ってってもらおうとか、じゃあこんなにいい温泉があるんだったら、1泊していきいかなと思っただけで急遽そこで宿を取るような、じゃあ温泉の成分とか効能とか、そういうものをしっかりとPRして伝えていくとか、これだけ源泉があちこちにあるんですよということを知っていただくとか、そういう意味でのやはり情報発信と飲食店の情報発信というものをしっかりと行っていきたいと思っています。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** 特に大事だと思うのは、全町的にアピールするという意味では、海外なんですよね。海外から見れば、もう一つのリゾートなんです。ただ、国内でいくと、やっぱり湯田中温泉行くかとか志賀高原行くかとなってしまいうんですが、もはや今は世界がもう市場になっている時代ですので、世界に対してアピールする意味では、特に全体的な特徴を、コンセプト

トを持たせたり、竹節前町長はスノーモンキータウンメイヤーと言っていましたけれども、スノーモンキータウンでもいいと思うんですね。それを軸にして、全体、スキーもできるし、温泉もあるし、リンゴもあるしというような形でやっていくことが、1つ魅力づくりになるんじゃないかなというふうに思いますし、また効率もいいのではないかなというふうに思っています。

次に、小学校のことについてちょっといきたいと思うんですが、教育委員会としては、新町長が立ち止まるということに対して、まず立ち止まると言っていたこと自体は当然分かっていたと思うんですけども、それを何かに反映したりとか盛り込んだりという考えはあったのでしょうか。

議長（高山祐一君） 柴草教育長。

教育長（柴草 隆君） お答えいたします。

先日、町の総合教育会議を17日に開催いたしました。その中で、教育委員会のほうから、町立統合小学校の整備計画案についてご説明をさせていただきましたので、その辺についてはご理解いただいているというふうに教育委員会としては考えております。

以上です。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 先ほどの町長の答弁を聞くと、今の町の教育委員会の方針と沿っているようには思えないんですけども、そこはどうでしょうか。

議長（高山祐一君） 柴草教育長。

教育長（柴草 隆君） お答えいたします。

新町長の考えでも、特に統合をやめるとかそういうことではなくて、統合自体については進めていく必要があるんじゃないかということを経済教育会議の中でもおっしゃっておられましたので、全く違うというふうには考えておりません。今後、またいろいろ町側のほう、町長部局のほうとも協議しながら、統合関係については進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 今回、当初予算では基本設計が入っていたんですけども、その校舎の基本設計の予算、また2年度にわたる債務負担行為ということで、さらに実施設計も含めたような、そういった予算立てをされていたと思うんですが、これは町長とのすり合わせというのはあったのでしょうか。

議長（高山祐一君） 柴草教育長。

教育長（柴草 隆君） お答えいたします。

当初予算の内容については、説明はさせていただいたと思っております。

以上です。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 逆に町長に聞きます。

町長はその説明について、どうお考えだったんですか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今回の統合に関してですけれども、基本的に教育委員会からも説明を受けております。その中で、統合すること以外の計画に関しましてはこれから詰めていくということで、今現状進行中というふうに認識をしておりました。その中で、私としては、より魅力のある学校づくりをする必要性がありますし、人口増につながるような学校づくりをしたいというところで、あと、もし統合を進めるに当たって、やはり東小学校、南小学校、西小学校の後利用のことを放置したままでは進めないということも私は考えていまして、その辺も含めて、やはりこの山ノ内町が魅力のある学校を持つという、つくるということに関して、本当に中学校の敷地内につくるということだけでいいのか、プラスアルファ何かしら魅力のあるしっかりとした教育機関を1つつくるのか、というところをしっかりと考えたいと。

私としては、統合するという事だけ決まって、計画は決まっていないということに対して、確かに若干の不安はありましたが、先日の議会初日の答弁でも申しましたとおり、今回予算に入っている、私のほうで決済を、ゴーサインを出さなければ、それが執行されることはないと思っていましたので、その辺は、今回基本計画ですね、統一小学校の基本計画を練るというふうに説明を受けていましたので、そこは計画を練るということで私のほうは認識しておりました。ただ、私としては、どうやって魅力をつくるかというところで、プラスアルファの考え方をこれからその基本計画の中に入れていきたいというふうに思っておりました。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 今の町長の答弁を聞いて、教育委員会はどのように思いましたか。

議長（高山祐一君） 柴草教育長。

教育長（柴草 隆君） お答えいたします。

今まで、基本方針、また整備計画ということで進めてきております。教育委員会としては、この整備計画に基づきまして、先ほども答弁申し上げましたけれども、また住民の皆様、そして保護者の皆様にこの整備計画の案をご説明する中で、またいろいろご意見をいただきながら、よりよい子供たちの教育環境を整えるように進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 町長としては、1校統合をしないという考えもあると、可能性はありますか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 1校統合ということで、1校にするということに限定して私は思っておりません。ただ、施設の老朽化や維持管理、あと様々なメリット、デメリットありますが、メリットの面でいくと、9年間の一貫教育ができるという側面でも、中学校の敷地内に小学校を

持ってくるということは、私としては悪くない案だと思っております。ただ、その上で、それだけにするのかというところに関しましては、私はもっと議論をしたいと思っております。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 結局、この後、今後どのような進め方をされていく考えですか。

議長（高山祐一君） 柴草教育長。

教育長（柴草 隆君） お答えいたします。

教育委員会といたしましては、また町長、それから町部局のほうと協議しながら、住民の意見を十分聞いていきたいというふうに考えています。

以上です。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） そうすると、これ、結構ここだけでも、ちょっと正直、私は一体統合するのか統合しないのか分からなくなりました。これは町民でも同じだと思うんですね。ですので、混乱を招くように思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そうですね、私の考え方で混乱を招く原因になっているということでしたら、大変申し訳なく思うんですが、やはりこの小学校統合問題というのは、もっと言えば町としては100年に一度の大事業というふうに捉えていますので、そこは私としても慎重にいきたいと思っておりますし、これからやはり学校の在り方ですとか教育の在り方ということも少しずつ変わってきている中で、今までのように人数が減ったから、じゃ統合しましょうと、1校にしてシンプルにしていきますというだけではこの町の魅力をつくれないうちと思っていますので、私としては、統合に関して言いますと、1つだけの小学校にまとめるということに関しては、そのまま賛成はできないと。ただ、敷地を1つにまとめて、中学校と小学校、メインの小学校を効率化していく、給食センターも敷地内に含めることで、今現在行われているトラックで輸送するということもなくなりますので、そういう意味でのメリットというものは十分ありますが、それだけではなくて、しっかりと西小学校、南小学校などの活用方法や、あと新しい教育スタイルに沿うような新たな教育機関的なものも前向きに検討していきたいと思っておりますので、1校だけに絞るという案ではなく、統合小学校という、言葉尻では難しいですけども、この計画に関しては、これから数か月かけてしっかりと基本計画を皆さんと一緒に練っていきたいというふうに思っております。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 教育委員会では、もう1校統合していくという方針を出しております。それで、それをもう山中の敷地でやるというふうに出しております。だとしたら、町長はこの計画を一旦止めるべきではないですか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 現在、これから基本計画をつくるというところで、基本設計はまた次の段



階だと思っていますので、まず今、基本計画をつくるという段階で、その中身づくりを含めて、どうやって魅力ある学校がつかれるのかというところと、町の経済発展に関して、本当にこのまま1校でいいのか、またもうちょっと違うものが必要なのかというところに関しては、私のほうでは並行で進めていきたいと思っていますので、現状、もしこの基本計画をこれからもんでいく中で、いや、このままやはり山ノ内中学校の敷地内にはつくらないと、つくらないほうがいいんじゃないかということになったら、もちろん止めることになると思いますけれども、現状では山ノ内町中学校の敷地内につくるという前提で基本計画を進めて、中身づくりですとか、じゃあいつとか、どのようにしてというところをしっかりと詰めた上で、それでもこの案はあまりよくないと思えば、止めたいと思います。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** 今、町民も正直混乱しているとは私思っています。しっかりと時間を取って、1回計画を止めて説明したり、意見集約をすとか、議論をすとか、それは別に私、ありだと思うんですね。ただ、今の曖昧な状況だと、これは町民が納得するのかなというふうに思います。それは、いま一つよく分からない状態で、とにかくどんどん先へ進んでいってしまっているからだと思うんですよ。そう見えるんですよ。それは、なぜそういうふうになってしまうのか、そこの根本的な原因というのはどこにあると思いますか。町長にお聞きしたいです。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 確かに焦っている感じが見えなくもないことは確かだと思います。ただ、例えば令和8年、もう今8年という予定はもう後ろにずらされたと聞いていますけれども、9年、もしくは10年に開校するとしても、かなりスピードアップして対策をしていかなければいけないというふうに思っています。町としましても、今現状、東、西、南と3つある小学校を、このままずっと何もせずに維持できるとは思っていませんので、その辺のしっかりとした統合に向けた動きというところでの魅力づくり、それが1校なのか、2校になるのかというところも含めて、早急にしっかりと議論をしていかなきゃいけないと思っていますので、確かに今、現状ですと混乱している形になっておりますが、おっしゃるとおりしっかりと議論をしたいと、議論をする時間が欲しいという意味での私は一旦立ち止まるというところですので、私としては、中止にしてしまうと、今までせっかく議論してきたものが生きてこなくなってしまうので、しっかりと1回立ち止まって、しっかりと議論をする時間をつくりたいと思っています。

**議長（高山祐一君）** 湯本議員。

**5番（湯本晴彦君）** 私は、結局1校統合が手段だからだと思うんですね。手段の話が先に先行して、目的、どういう教育をするか、これは町長も問題意識はあると思うんですね。そこがされないまま手段の話ばかりになっていってしまっているんだと思うんです。だとすると、じゃあどういう教育、何を大事にしていくのかというところが重要かと思うんですが、その辺何かお考えはございますでしょうか。町長にお聞きしたいです。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） これからの学校づくりというところでの、学校を魅力的にしていくというところに関しましては議論をしていきたいところではあるんですが、私の個人の意見としましては、現在行われているユネスコスクール、E S D教育に関しては、引き続きしっかりとやっていきたいと思っておりますし、英語教育に関しましても、しっかりと英語教育を充実させていくことで、山ノ内町で育つ子供たちが世界に出ていきやすくなるような、そういう教育にしっかりとしていきたいと思っております。その中で、やはりどうしても大人数でやるべき教育、大人数のほうがいいと思われる保護者の方とその教育スタイルと、少人数でもしっかりと質の高い、ある種、例えばですけれども、スポーツやアートなどに特化するような、それぞれの個性を伸ばすような教育というところでも両立できないかと思っておりますし、私自身が高校時代過ごしたアメリカの高校は、はっきりと文武両道を地で行っていました。日本のほうが文武両道をいろいろな理由を言って行っていないというのが現状です。ですので、しっかりと文武両道ができる環境づくりというものができるといような学校というのも必要だと思っておりますので、そういうところにしっかりと力を入れていきたいと思っておりますし、検討材料の一番最重要課題として、教育委員会ともその辺を主に検討していきたいと思っております。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） そういった文武両道というコンセプトならコンセプトで、しっかりと出していきたいなと思います。

私は、情操教育じゃないかなと思っております。こういった自然あふれる町、山に囲まれた山懐の町なんです。温泉もあり、ぬくもりのある町だと思いますので、こういった環境からは、相手を思いやる気持ちとか命の大切さ、また自然の変化や季節性の大きい町ですので、そういった自然の変化から知的好奇心、こういったものが育まれるというふうに思っております。それが私はユネスコスクールだと思うんです。それが環境教育とか人権とか持続可能とか、それこそE S Dとか横文字が入ってくことで非常に分かりづらくなっているんじゃないかなと。もっとシンプルで平易な言葉で語っていただきたいというふうに思います。

そのために、山ノ内のコンセプトをしっかりとつくっていただいて、温かさと気高さのある、それを兼ね備えた、民度の高い町民、町なんだというようなところを、それこそ元オリンピック選手である町長だからこそ言えるこの町の良さや、この町で学べることを明確にしていきたいというふうに思います。

時間が無くなりましたので、次にいきたいと思っております。

開かれた町政についてですけれども、町民の声をいろいろと定期的に聞いていくのはすごくよいことだとは思いますが、細かいことも上がってくると思っておりますし、当然文句的なものも出てくると思っております。

今議会の補正予算で、文化センターに空気清浄機が入ることについて私が質問をしましたが、それは覚えていらっしゃるでしょうか。続けますが、ちなみに、空気清浄機というのは、いつ必要

だったと思いますか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 空気清浄機は、コロナ真ただ中で必要だったんじゃないかと思います。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 空気清浄機は冬なんです。換気ができないんですよ。だからこそ空気清浄機が欲しかったんです。それで、今もう設置されております。前町長のご配慮によってだと思うんですが、来年度じゃなくてここで上げていただいて、ここはまだ寒いですから、それだけでも非常にありがたいんですが、秋に田植えしようとしたって無駄なんですよ。それと同じような感じがします。タイミングって非常に大事だと思いますので、そういった部分をぜひ町民の声を聞くという部分では大切にしていきたいというふうに思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） おっしゃるとおり、なぜこのタイミングだったのかというのは、私もちょっと深く調べてはいないんですけども、空気清浄機は確かに必要なタイミングで適切に入れるべきだったのではないかと個人的には思いますので、そういうことも踏まえて、正しいタイミングで正しいことができるような町政を目指すということでも、私としては定期的に町民の声を聞かせていただきながら、細かいところ、細かい提案もなるべく聞き取れるような、そういう環境をつくっていきたいと思っています。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） また、町の職員もいろいろと面倒なことをやってもらおうと思いますので、その意味で、町民との意見交換も大事ですが、町職員との対話、この辺は就任してこれまでの間、どの程度されているのか、またこれからどの程度やっていく予定なのか、その辺をお聞かせください。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 職員につきましても、やはりチームとして一緒にやらなければいけない仲間ですので、一人ひとりと話しながらやっていきたいと思っておりますし、既に、まだ就任して2週間と1日ですけども、ちょっと個別に会ったりですとか、私のほうで部署に、課のほうに下りて行って話すなどして、なるべく多くの職員とその職員の人となり含めて接することができるように努めております。これからまた、まだ3月、少し残っていますので、3月中には引き続き職員とのコミュニケーションを取っていきたいと思っておりますし、また3月人事もありまして、4月から新しい方も入ってくると思いますので、そういうのを含めて適時、私としてもコミュニケーションを取っていきたいと思っております。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 私、庁舎内をまとめられない人は、町もまとめられないと思っています。ですので、まず職員の人たちとの対話も大事していただきたいですし、必要のない事務作業に

追われていないか、そういったところをまず減らしていただきたいというふうに思うんです。中でも、何とか計画というのが非常にいっぱい出ております。これは国からの方針でつくらなければいけないところもあると思うんですが、だとすれば、必要最低限にとどめるとか、何かそこら辺の軽減というのはお考えでいらっしゃいますか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 現状、私のほうではまだそこまでいろいろな計画がという話まではできておりませんので、引き続きその辺はちょっと調査させていただきながら、必要ないものはもちろん負担軽減のためにも切っていかなければいけないと思いますし、あとやはりデジタル化によって職員の負担を軽減させるということも引き続き進めていきたいと思っております。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） こういった計画をつくる上で、外部のコンサルタントに依頼したり、客観的な意見を取るという意味ではまあ有益だとは思いますが、丸投げしているような部分もあったりしないでしょうか。これは総務課長にお聞きしたいです。

議長（高山祐一君） 総務課長。

総務課長（小林広行君） お答えをいたします。

計画には、先ほどから出ているとおり、数多くの計画があります。その一番上位の計画として山ノ内町の総合計画がありまして、基本構想と基本計画は総務課担当でつくったんですけども、職員のほうが約9割以上、今回の計画は作成に携わっております。残りの1割というのは、要は印刷、あるいは計画書のレイアウト、こういったものはやはり役場の職員よりも技術さんのほうが優れているということでやっておりますので、決して業者任せではないということとは申し上げたいと思います。

以上です。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） それこそ町長がたたき台をつくるべきではないかというふうに思うんですね。細かい部分までは必要ないと思いますが、方針や方向性、戦略が私は欲しいと思います。それがバラバラになって、いろいろなコンサルタントとかが出してきたものを寄せ集めた形で、総花的な計画になってほしくないと思います。そして、その町長の考えに基づいて、職員の人たちが細かく計画を立てていく、そういった形がよいと思うんですね。そうすると、余計な費用も減りますし、町長が給料をカットしてというのではなくて、外部の委託費がそれ以上に下がるかもしれないんです。町長の給料カットもいいと、するなどは言いませんが、給料以上に成果を上げてもらうことのほうがずっと大事だと思うんですね。その意味で、町長がまず計画を出すべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 湯本議員のおっしゃるとおり、私がつくるべきだと思っております。私の今までの前職でも、企画をつくるということが仕事でしたので、会社運営でもそうですし、い

ろいろ様々な企画をつくる時にも、自らがしっかりと考えを入れ込んだ計画書をつくるというところで、肉づけを職員にやっていただくというふうに思っています。大変申し訳ありませんが、第6次の計画に関しては全く関与していませんでしたので、どういうふうにつくられたという経緯は正直存じておりませんが、今後はしっかりと私がリードしていくというふうに思っております。

議長（高山祐一君） 湯本議員。

5番（湯本晴彦君） 今回、私の質問は一方的な話が多かったかもしれませんが、目新しい質問をしてきたわけではありません。議員として8年間思ってきたこと、考えてきたことをまとめて出させていただきました。これから、山ノ内町が大きく変化を迎えるときだと思えます。新年度から町がよい方向に向かっていくことを祈念して、町長には戦略を持つこと、そして自ら計画を立てること、そして庁舎内をまとめること、それを再度お願いして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

議長（高山祐一君） 5番 湯本晴彦君の質問を終わります。

ここで議場整理のため、11時25分まで休憩します。

（休憩）

（午前11時14分）

---

（再開）

（午前11時25分）

議長（高山祐一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

---

議長（高山祐一君） 1番 塚田一男君の質問を認めます。

1番 塚田一男君、登壇。

（1番 塚田一男君登壇）

1番（塚田一男君） 1番 塚田一男です。よろしくお願いします。

さて、WBCもいよいよ終盤を迎えています。また、一昨日には選抜高等学校野球大会が開幕し、まさに球春到来です。この野球の国・地域別対抗戦第5回ワールド・ベースボール・クラシックは、1次リーグが日本で行われ、侍ジャパンは16日のイタリアとの準々決勝に勝利、明日、アメリカ合衆国フロリダの地でメキシコとの準決勝の対戦が予定されております。学童の野球に関わる1人として私も大いに興味がありますが、多くの国民の皆様もフィーバーしている大会になっています。

なお、侍ジャパンには、当町とのつながりのある中野市出身、横浜ベイスターズの牧秀悟選手も出場し、活躍されており、うれしく思います。これを機に、野球に取り組む子供たちが1人でも多く参加し、野球を介してスポーツを楽しむことを心から切望いたします。

さて、2月26日に投開票された町長選挙で、平澤新町長が誕生されました。この選挙結果は民意であり、言うまでもなく尊重されなきゃなりません。一方、選挙公約は、有権者の投票行動に関わる重要な判断材料であると思っております。このため、本議会における一般質問

では、その選挙における公約を中心に、平澤町長のお考えなどをお聞きしたいと思います。

なお、質問項目には他の議員との重複もあることから、一般質問の2番打者として、しっかりとつなぐことにはいささか不安がありますが、誠心誠意努めさせていただきたいと存じますので、よろしく願いいたします。

また、私は昨年1月の補欠選挙で議員になりましたが、約1年2か月が経過しました。その約1年2か月の総括という意味で、含めて質問をさせていただきたいと思います。

それでは、貴重な時間をいただきましたので、通告書に基づき質問させていただきます。大きな1、公約について。

(1) 「開かれた町政を」について。

① 「住民目線での町政運営」の内容は。

② 「住民参加型の意見交換会を」実施について。

(2) 「子育てしやすいまちづくり」について。

① 「保育園・給食費の無料化を目指す」その内容は。

② 「子供教育とスポーツ環境を整える」の内容は。

(3) 「稼げる農業へ」について。

① 「ブランディングと付加価値創造」の考えは。

② 「労働力不足などの問題解決」はどう進められるのか。

(4) 「しっかり経済活性化」について。

① 「流入人口増加5割増を」に係る戦略は。

② 「ふるさと納税倍増、町の税収アップ」の方策は。

(5) 「健康長寿日本一を目指す」について。

① 「町内公共交通網の再整備」の方策は。

② 「スポーツと医療で健康長寿の町へ」への施策内容は。

(6) 「自らセールス、観光立町の復権」について。

① 「観光産業200%増を目指す」の方策は。

② 「案内所再整備、世界へ山ノ内町をPR」はどのような方策を考えておられるのか。

大きな2、小学校1校統合について。

(1) 統合準備委員会における現在の進捗状況は。

(2) 統合準備委員会における委員からの意見集約とその内容は。

(3) 今後のスケジュール概要は。

大きな3、総合型地域スポーツクラブについて。

(1) 進捗状況は。

(2) 設立準備委員会における各競技団体等に係る意見・要望の内容は。

(3) 住民の意見集約は。

なお、再質問は質問席にて行わせていただきます。

議長（高山祐一君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

（町長 平澤 岳君登壇）

町長（平澤 岳君） 塚田一男議員のご質問にお答えいたします。

大きな1の公約について、（1）「開かれた町政を」についての①「住民目線での町政運営」の内容についてですが、今まで町民との対話の場がなかったと聞いておりますので、しっかりと町民の声を聞いて町政に反映させたいと思っております。

住民目線でというのは、私が役場勤務経験ゼロという、元経営者という立場でこの町の町政を運営していくというところで、しっかりと私の民間での経験を活かした、一住民としての目線での町政を運営していきたいと思っております。次にもつなげる質問でもあるんですが、実際町で事業を行っている、営んでいる方々や、子育てをされている方々の声をしっかりと聞く機会を持つことで、住民目線での町政運営ができるのではないかと考えております。

②の「住民参加型の意見交換会を」の実施についてですが、こちらは先ほど湯本晴彦議員の質問でもお答えしたとおりかと思っておりますので、省略させていただきます。

（2）の「子育てしやすいまちづくり」について、①の「保育園・給食費の無料化を目指す」の内容についてですが、こちらは保育園の無料化と義務教育の給食費無料化を目指したいと思っております。もちろんそれには財源確保も必要ですので、順次手を打っていかうと思っておりますが、給食費を無料化するためには約5,000万から6,000万円の財源が必要ですし、保育園の無料化に関しましても、こちらは今3歳未満が有料で、3歳児以降は無料という、既に町も無料化を進めておりますので、3歳児未満を無料化するに当たっては、簡単には1,500万円以上の財源が必要にはなるんですが、それと同時に保育士の確保なども必要になりますので、なかなかすぐに手を打てないというところにはなると思っておりますが、引き続き方法を探していきたいと思っております。

②の「子供教育とスポーツ環境を整える」の内容についてですが、現在、子供たちの習い事などを考えると、中野市に行っているというふう聞いております。山ノ内町で全てのスポーツの環境をつくることはできないと思っておりますが、子供たちが安心してスポーツに打ち込める環境を町内でも整備していく必要があると思っております。総合型地域スポーツクラブの設立という課題もありますし、山ノ内町は、私もそうでしたが、アルペンスキー、クロスカントリースキー、そしてスノーボードではオリンピック初の会場になっておりますし、ウィンタースポーツに子供たちが取り組める環境をもっと整備してもよいのではないかと考えております。少子高齢化の今ですので、山ノ内町ならではの環境づくりをしたいと思っております。

（3）の「稼げる農業へ」についての①「ブランディングと付加価値創造」の考え方についてですが、山ノ内ブランドの果樹やキノコ、農産物をしっかりとブランディングしていきたいと思っております。

私が過去に行ってきた仕事で、レッドブルという飲料メーカーの仕事があります。レッドブ

ルは、自らを飲料メーカーというよりもマーケティングの会社と自負しているぐらいで、マーケティングでいかに同じものでも高く売るかということをしてきて、エナジードリンクというマーケットを確立し、世界一の飲料メーカーになりました。ブランド力をつくって発信するためには、ストーリーと歴史が必要で、山ノ内町はその両方が既にありますので、それらをしっかりとPRし、国内外にアピールしていくということの必要性があると思っております。

②の「労働力不足などの問題解決」はどう進めるのかについてですが、日本全体でも労働力不足は起きていますので、簡単に解決できると思っておりますが、今後は外国人労働力、技能実習生研修制度なども活用したいと思っております。山ノ内町特有の現象としても、観光では冬に労働力不足が顕著にあり、農業では夏に労働力不足があると言われておりますので、先ほども湯本議員のほうでもお話ししましたが、町がハブになるような形で、中間にマッチングシステムみたいなものがつくれたらよいのではないかと考えております。まずは大至急現状把握して、どのようなことができるかということも含めて、しっかりと外部の有識者も入れて検討会議を開いて進めていきたいと思っております。

(4)の「しっかり経済活性化」について、①「流入人口増加5割増」に係る戦略についてですが、こちらも先ほどの湯本晴彦議員にお答えしたとおりでございます。

②の「ふるさと納税倍増、町の税収アップ」の方策についてですが、まずこのふるさと納税を倍増させるためには、専門家の知識が必要になると考えております。既にこのアイデアを持っている会社とも話をしておりますので、なるべく早く実行に移していきたいと考えています。具体的には、ふるさと納税の登録サイトを増やしつつも、SEO対策をしっかりと行う。SEO対策というのは、しっかりとインターネット上で人の目に留まるという工夫をしっかりと行っていきたいと思っておりますし、プラスアルファで、この山ノ内町に来た方がその場でふるさと納税ができるシステム、そういうようなシステムは今もう既に使っている自治体がありますので、観光客として来た方がその場でふるさと納税できるようなシステムを導入したいと思っております。

実際、私が去年関わっていた北海道の美唄市というところは、毎年5億円ずつふるさと納税がアップしてきて、3年間かけて15億円アップして、昨年度は17億円のふるさと納税を得ております。そこにもノウハウはありまして、地域活性化起業人という枠組みを使って、プロをしっかりと庁内に、市役所内に入れて、日々ふるさと納税に対する対策をプロにやってもらうというところで、地域活性化起業人というのは、国からお金が出るものですので、そのようにしてあまりお金をかけずにふるさと納税を倍増させるということをやってきたのを横で見ているので、いいところをしっかりとまねさせていただきたいと考えています。

(5)の「健康長寿日本一を目指す」についての①「町内公共交通網の再整備」の方策についてですが、既に役場内部でも取組が進み始めておりますが、楽ちんバスのルートを充実するというのと、それだけではなくて、診療所への足の確保など細かいニーズを充実させる方向



で既に職員も動いておりますので、その辺はしっかりと私のほうでもサポートしながら、一緒に検討していきたいと思っております。

②の「スポーツと医療で健康長寿の町へ」の施策内容についてですが、医療費の抑制にもつながりますので、お年寄りが健康でいられること、健康増進と未病予防に力を入れたいと思っています。そのためにも、お年寄りがスポーツなどを通じて社会から分断されないようなコミュニケーションを取ったり、コミュニティをつくっていくということが必要になると思っておりますし、ITを使った独り暮らしの高齢者の見守りシステムなどもしっかりと導入していきたいと思っております。

(6)の「自らセールス、観光立町の復権について」の①「観光産業の200%増を目指す」の方策についてですが、全体の観光者数では明らかに白馬や野沢温泉よりも山ノ内町というのはい多いのですが、山ノ内町の外国人宿泊者数は白馬や野沢温泉よりも少ないのが現状です。令和4年で山ノ内町の観光消費総額は約177億円という数字が出ております。平成30年で238億円でした。もちろんコロナによる影響が大きいところですが、山ノ内町としては250億円から300億円が目指すべきラインだと思っております。そのためには、スキー場を中心とした観光産業を4シーズン稼働型にしていく、具体的には4シーズン動かせる、オールシーズン、通年通じて動かせる索道などをしっかりと整備することを町でもサポートし、それに既存のホテルを連動させて、新しいホテルや企業などの誘致も促進するという必要性があると思っております。

②の「案内所再整備、世界へ山ノ内町をPR」はどのような方策を考えておられるのかについてですが、2015年に竹節前町長に私自身が自主プレゼンをしに来たことがあります。たまたま白馬のスキー場で自動車のメーカーのプロモーションをしていた際に、スキーをしに来ていた外国人観光客がスノーモンキーを見てきたと話してくれました。私は、もちろん志賀高原で滑ってきたかと聞いたら、志賀高原って何というふうに聞かれて、非常にショックを受けたことが発端で、2015年に竹節前町長に私自身がプレゼンに来た次第です。観光客は完全にスノーモンキーしか見ておらず、これは誰が悪いというわけではないのですが、スノーモンキー目当てに来た観光客に山ノ内町を知ってもらえる場所がないということが問題だと思いました。現在、道の駅もありますが、現在はお土産を買うのがメインで、観光の情報発信はパンフレットが置いてあるだけです。私が2015年に竹節前町長に自主プレゼンした内容は、山へ登る上り車線側にビジターセンター的な情報発信基地とカフェやお店などをつくったらどうでしょうかという簡単な内容だったんですが、残念ながら当時の竹節前町長には興味を持っていただけませんでした。

現在、山ノ内町の観光客の入り口は、湯田中駅と、車で来る方、大きく分けると2つの入り口があります。その両方で来られた方、両方で山ノ内町に入ってきた方に、しっかりと湯田中温泉や渋温泉、北志賀、志賀高原、あとリンゴ、ブドウなどの農作物のことも伝えることができる場所をしっかりとつくっていくということが必要だと思っています。あと、様々な時間帯

に到着される国内外の観光客の方に、しっかりと案内できる環境をつくるべきだと思っています。そのようなしっかりとした観光基盤をつくることで、山ノ内町に来た観光客が、先ほど湯本議員の中でもお話ししましたが、SNS等で発信していく時代ですので、発信されたことによって世界に山ノ内町の観光地がしっかりと伝わっていくというふうに期待をしております。

大きな質問の2の小学校1校統合についての3点のご質問ですが、詳細につきましては、後ほど教育長から答弁させていただきます。

大きな3の総合型地域スポーツクラブについて3点のご質問ですが、こちらも詳細につきましては教育長から答弁させていただきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 柴草教育長。

**教育長（柴草 隆君）** 塚田一男議員のご質問にお答えいたします。

2番の小学校1校統合について、（1）統合準備委員会における現在の進捗状況は、（2）統合準備委員会における委員からの意見集約とその内容、（3）今後のスケジュール概要ですが、3点のご質問ですけれども、関連がありますので、合わせてお答えをいたします。

小学校の統合準備委員会におきましては、第1回会議を12月23日に開催し、計5回の会議を行いました。その中で、整備計画の骨格である基本構想を重点に、ワークショップ等により意見をいただき、山ノ内町の目指す学校、子供の姿等について協議を行い、整備計画（案）を策定しました。この整備計画（案）につきましては、今後、保護者や町民の皆様への懇談会等を実施し、そこでいただいた意見を反映し、整備計画の策定とする予定であります。

また、来年度より委員の増員や5つの専門部会の設置を行い、それぞれの部会に属していただき、統合小学校開校に向け、課題検討事項について協議をしていただく予定であります。

来年度増員となる委員の構成につきましては、今年度の委員から意見をいただく中で構成を考えております。

次に、3番、総合型地域スポーツクラブについて、（1）進捗状況は、（2）設立準備委員会における各競技団体等に係る意見・要望の内容はについてですが、関連がありますので、合わせてご答弁申し上げます。

令和6年度の町総合型地域スポーツクラブ設立に向け、令和4年4月に総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を立ち上げました。各競技団体との情報交換、意見集約や要望把握のため、委員には体育協会、スポーツ推進委員会、スポーツ少年団、中学校校長等10名のほか、県教育委員会3名の方にオブザーバーとして出席いただき、8月と1月を除き、毎月1回、計9回、準備委員会を開催しています。

準備委員会では、スポーツクラブの理念、事業計画、予算、イベント企画、5年度活動計画等について会議を開催していますが、ご質問のありました各競技団体からの意見・要望等について、現時点では特別ありませんが、必要に応じ、準備委員会の中で協議してまいります。

（3）の住民の意見集約はについてですが、今年度の取組として、町内の保育園児から中学

生までとその保護者を対象とした、運動スポーツ、運動遊びに関するアンケート調査を実施しました。運動遊び、スポーツは好きかという質問に対して、全体では約9割が「好き」、「どちらかという好き」という回答があったものの、約1割は「嫌い」、「どちらかという嫌い」という結果でした。嫌いの理由については、苦手だから、疲れるから、面倒だからなどとなっております。

このアンケート結果も踏まえながら、スポーツクラブの理念である「スポーツを通じて人づくり、まちづくり」により、地域の誰もが気軽に継続的にスポーツを楽しむことができる環境を提供し、スポーツを通じて地域コミュニティの活性化、健康増進、明るく豊かな生活を実現するため、今後も引き続き支援をしてまいります。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** それでは、再質問させていただきます。

なお、再質問も、先ほど冒頭、質問項目の列挙の前に発言させていただきましたけれども、他の議員が質問されておりますので、再質問については私がお聞きしたいところを重点的に聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、1の公約の（1）の住民目線での町政運営については、先ほどご説明いただきました湯本晴彦議員の質問でも答弁ありました。この中で、半年単位、それから町内数か所で意見集約する、②も含めてですけれども、意見集約したいという、そのような方向だということでお聞きしました。

やはりこれから私が一番大事と思っていますのは、そのような形で意見集約、大いに賛成です。ただし、これから高齢化率が高くなったときには、もう少し高齢者に耳を傾けるような形で、高齢者のサロンとか、そういう場もしっかりある程度年間の計画に入れていただければと思います。高齢者によっては拒否される方も当然、好ましくならない方もおられるかもしれません。けれども、やはりこれからの高齢者の意見も聞くこと、それからが大事だと思いますので、その点について町長のお考えをお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** そうですね、住民の方々の意見をしっかりと聞く場をつくるというところでの、半年に1回とかの間隔で意見交換会をしていきたいというところですが、なるべく高齢者の方も来やすいような、この町で1か所ではなくて数か所に分けて行うなどして、アクセスいい場所で、小さくてもいいのでそういう集まりをやりたいと思っていますので、やはりちょっと押しかけていくというのはなかなか難しいので、しっかりと近いところで開催していきたいと思っております。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** それをぜひお願いします。やはり高齢者は公共交通の足の確保の問題もありますので、ぜひミニ車座集会的なことも含めて、また高齢者の意見も十分聞いた上で進めて

いただきたいと思えます。

それでは、次に（２）「子育てしやすいまちづくり」についてお聞きします。

まず、①の「保育園・給食費の無料化を目指す」についてですが、私もこの検討には基本的に賛成です。しかし、具体的な方向性をどのように考えているのかお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 今の無料化を目指すというところでの答えなんですけれども、先ほどお話ししたように、義務教育の給食費を無料化するとすると、かなりの財源が必要になります。保育園の3歳児未満を無料化するのもしかりでして、まずはその財源の確保というものがどうやってできるのかというところを、まず市内で検討しなければなかなか先に進めませんので、これはしっかりとした中長期的な目標として念頭に置きながら、どのタイミングで予算化するのかなども含めて、前向きに検討していきたいと思っております。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** 実は、東京都荒川区の取組について、共産党の機関紙「しんぶん赤旗」に掲載されておりますけれども、荒川区では4月から完全給食費無料化です。7億5,383万円が計上されています。区内の小学校、中学校34校があるそうなので、さらに幼稚園が8園、これに通う児童・生徒約1万2,800人が対象です。そうしますと、私の単純計算では、1人約5万8,000円ぐらい年間かかるわけです。そうすると、先ほど説明いただきましたけれども、そうした場合の取組の推定では、かなりの、何百万というお金がかかるということでありまして、本当にこれは5,000万から6,000万の見込みだ、概算見込みだと先ほどの答弁でいただいたと思っておりますけれども、このように、やはりそれによって1世帯、例えば小学生の子供、中学生の子供、お1人お1人いらっしゃる世帯では、年間10万円以上の支援になるわけですね。私も、ぜひこの辺はしっかりそういう視野を基に、前向きに検討いただきたいと思えますが、その点についてお伺いします。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員、次質問のとき、マスク外していただいていたいいですか。すみません。

平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 確かに荒川区は7億円ということで、非常に大きな負担をできるんだなということで、現状、今、義務教育上の学校給食というのが大体4千幾らというふうなたしか記憶していますので、単純計算で5万円近くになるのではないかと思うんですが、5万円前後だと思うんですが、確かにそれが子供が2人いれば10万円ですので、なるべく早いタイミングで給食費を無料化していきたいとは思いますが、何せ私も町長になってから決算書、予算書を見ていますが、まだ全部見切れているわけではないんですが、やはり町税の収入が少ない町ですので、国からの支援が非常に多く入っている町ですので、そこをしっかりと立て直した上で、例えばですけれども、ふるさと納税をしっかりと倍増できて予算確保できたらとか、様々な新しい経済発展がある中で、少しずつ町税が増えていく中での予算確保というところで、両

軸でなるべく早いタイミングで実現したいなどは思っている政策ですので、ご理解いただければと思います。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1 番（塚田一男君） 金額も費用対効果の面もあります。一旦全て完全無料化ではなくても、例えば、千葉県の取組では、多子世帯、お子さんが多くいらっしゃる世帯、第3子からの取組を令和5年度から取り組むというような情報も、報道もあります。一旦はやはり財政の面もありますので、その辺も含めた検討についてどのようにお考えになるのかお聞きします。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そうですね、2人目からとか3人目からというのもいいアイデアだと思いますので、その辺も含めてこれから前向きに検討させていただきたいと思います。

以上です。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1 番（塚田一男君） ぜひとも前向きに、基本的に私も大賛成ですので、ぜひとも前向きなご検討をお願いしたいと思います。

次に、子供教育とスポーツについてですが、17日に開催された町総合教育会議は私も傍聴させていただきました。この会議には、委員からの要望や意見もありました。その中に、保育に関わる施策の発言があり、町長は保育士として働いていただけるように処遇改善も視野に考えたいとご発言されたと記憶しております。これについてお伺いします。どのような改善を考えておられるのかお聞きします。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） ごめんなさい、もう一度、今、保育士のことについてというご質問でしたでしょうか、すみません。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1 番（塚田一男君） はい、総合教育会議の中で委員から発言があって、保育士はなかなか採用しても集まらない。そのため、令和5年度は業務委託したいという予算計上になっています。そのことの中で、町長は保育士として働いていただけるように処遇改善も考えたいと発言されています。そのことについてお聞きします。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 確かに保育士さんが募集しても集まらないという現状の報告を受けていますし、今年は業務委託をする方向でということも報告を受けていましたので、私としても、今後、業務委託で業者さんに保育士さんを探してもらうというのは、短期的な解決策でしかないと考えていますので、中長期的にはしっかりと保育士さんへの手当を増やすなど、しっかりと山ノ内町でいい保育士さんが確保できて、保育士さんがしっかりと山ノ内町に住んで生活しながら仕事ができるような、そういう資金的なサポートも視野に入れてしっかりと行ってきたいと思っています。千葉の流山市のほうでは、かなり保育士さんへの手当を増やすことで人材

確保を進めているということも聞いていますので、そういうところもしっかりと勉強させていただきながら、山ノ内町としてはどうやったら保育士さんが確保できるのかというところを進めていきたいと思っています。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** 分かりました。

保育士の確保は、やはり時間内保育はもとより、延長保育、休日保育等の影響も大きいわけでありますので、子育て施策の重要な柱の一つです。したがって、令和5年度は先ほども話がありましたとおり、保育士採用をしても応募がないため、派遣事業の取組に至っております。どうか処遇改善、あるいは募集する方法などの工夫を含めて、前向きに取り組んでいただくことを要望いたします。

次に、「子供教育とスポーツ環境を整える」について、改めてどのような施策を考えておられるのかお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 子供教育とスポーツ環境を整えることに関しましては、やはり現状、社会体育館がないということで、総合型スポーツクラブを、今、部活動が外にどんどん出されていくというところで、総合型スポーツクラブをどのような形でつくるのかということで議論が進んでいくと思いますので、そこに関してどのような施設が必要なのか、例えばですけれども、小学校を統合するような、中学校の敷地内に小学校をつくるとなった場合に、プールがなくなるという問題もありますが、それを総合体育館的なプール付の施設ということで将来計画することによって解決するのかなども含めて、今後しっかりと検討していかないといけないと思っています。

先ほどもお答えしたように、山ノ内町で全て完結できるとは思っていませんので、地域連携という形で中野市とも連携をしながらという形にはなるんですけれども、可能な限り山ノ内町では山ノ内町ならではのしっかりとしたスポーツ環境をつくるというところで、現状、アルペンスキー選手もクロスカントリーのスキー選手も、やりたいと思う子供たちが減っているという報告も受けていますので、そういうところに関しても、子供、親御さん含めて、スキーとかアルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーボードをさせやすいようなサポートがどうやったらできるかですとかも同時進行で考えていきたいと思っていますし、先ほどお話ししたような体育館をつくるのかつくらないのか、その体育館をつくるとしたら、どのような方向性なのかなども含めて、今後、総合型スポーツクラブの検討委員会のほうでしっかりと検討して方向性を出していきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** 子供の教育について、小学校の問題がありますから、統合小学校が集中した観点じゃなくて、若干お聞きしたいと思います。

総合教育会議において、統合小学校整備計画案が協議されました。委員から、町長はちょっと立ち止まる、先ほど湯本晴彦議員の質問もありましたけれども、必要の真意についての発言があり、これについて、ちょっと立ち止まる旨の発言は、状況が分かっていなかったという発言もございました。また、方向性は理解していたが、中身が決まっていないという理解があり、このような発言に至ったという説明でした。これについて、確認の意味でお聞きします。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 私もこの基本方針というものをしっかりと見るまでは、現状が今どのタイミングだということをしっかりと把握できておりませんでしたので、このたび把握した上で、基本計画を策定する段階というふうに認識しておりますので、ただ、いち住民としまして、1校にすることは決まっているけれども、詳細は決まっていないというような簡単な内容では皆様納得しないと思いますし、私も納得しておりませんでしたので、しっかりとその中身づくりを急いでしなければいけないと思っておりますので、先ほど湯本議員からもあったような、やるということだけが決まって、中身が伴っていないということで進めるというのは、私も賛成しかねておりましたので、こういう発言になっております。

以上です。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1番（塚田一男君） その中で、総合教育会議の中で、また町長は小規模校もよい教育ができるところもある。全国には様々なユニークな学校があり、確認し、その点も議論することが大事と発言されておると思っています。この発言について私が受け止めた、間違っていたなら憂慮すべき事態であるため、確認のため、この発言についてお聞きします。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 確かに私、そのような発言をしております。少人数でも優秀な学校というのは存在しますし、わざわざそのためだけに引っ越してきて、自分の子供を通わせたいと思えるような学校があるがために流入人口が増えてくると、移住してくるという方もいますので、それぐらい魅力のある学校はつくれないものかというふうに思っていますし、それが必ずしも少人数なのか、大人数なのか、どちらかという中身の作り方だと思っておりますので、どういう中身があれば、そういう移住してまで山ノ内に住んで、ここで子供を育てたいと思ってもらえるような方が増えるのかというところをしっかりと議論すべきだということで、そのような発言をさせていただきました。

先ほど、湯本議員のお話にもありましたけれども、やはり文武両道も含めてですが、しっかりと方向性と充実した教育内容をつくり上げるということが必要だと思っておりますので、統一させるということが最終目的ではないというふうに私も思っておりますので、そこをしっかりと議論していった、もっと外からのいろいろなアイデアですとか事例なども含めてテーブルに並べて、しっかりと議論すべきと思っております。

以上です。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1番（塚田一男君） 当町も、手厚い子育て施策に取り組んでいただいております。これについては頭の下がる思いです。しかし、出生率が低下しています。これによって、児童・生徒数の減少があり、この小学校統合問題についても議論されているところだと理解しております。また、子育て施策については、国でも家庭こども庁ですか、4月1日に発足して、様々な施策に取り組むとの発表であります。私は、この国の施策の中で、理念が先行して具体策に欠けているように感じております。町長も公約の項目を基に理念を掲げておられます。これから当然具体的な施策に関わる案のスケジュールが示されると思いますが、この点についてお聞きします。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 国のほうでもこども庁ができるということで、子供に対して様々な支援をしていこうという方向でこれから進むと思っておりますので、山ノ内町としても、しっかりと子供問題というのは充実させていきたいと思っております。子供を産んでもらうというところはコントロールできませんので、子供はどっちにしても全国的にも出生率は低下していくという、現状我々が関与できるところとできないところというのをしっかりとすみ分けて、我々が関与できるところでいくと、より山ノ内町を魅力のある町にして、教育も含めて、住居環境・住む場所、働く場所、教育という3点でしっかりと魅力ある町にすることで人口を増やすことができると思っておりますので、それだけの観光資源を含めて、農業も魅力のある町だと思っておりますので、そこをしっかりと強化して、人口増加に向けて対応していきたいと思っております。

以上です。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1番（塚田一男君） この少子化の背景には、様々な要因があるというのは衆目の一致するところだと思います。その1つに、結婚しない人が多いことがあります。その理由として、私なりの理解ですが、面倒だから独身でいたい人、結婚したいが出会いがない、結婚したいが非正規雇用のため経済面で断念、育児休業面など様々な課題があると思います。やはり経済的格差、これが根底にあるのではないかと私は考えます。この点について町長の考えをお聞きします。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 町でも婚活イベントをやったりもしていると思うんですけども、確かに出会いの場がないですとかというのは非常に大きな問題だと思っております。あと、経済的な格差というのも問題だと思っております。

町としてできること、できないことというのが出てくると思うんですが、町としては引き続き結婚するチャンスを、なるべく町民の方々にもどうやったら増やしていけるのかというところで、私自身は婚活イベント、もちろんやってそこまで効果が出るのかということに関しましてはちょっとクエスチョンマークは持っておりますが、やらないよりはましと思っておりますので。さらに、例えばですけども、より出会いが増えそうな、ハブになるような場所をつく



るですとか、何かしら対策は取っていきたいと思っていますし、日本も今、これから結婚に関しても多様化が進むと思っています。同性婚もそうですし、結婚しないという状況でパートナーと一緒に住むということも多くなってくると思いますので、そういう様々な多様化するような生活スタイルに対応するような形で、町としてもしっかりとサポートしていきたいと思っていますので、今までのような分かりやすい結婚と子供を産むみたいな、そういう図式ではなくなる可能性は非常に高いと思っていますので、それにちゃんと対応していきたいと思っています。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** 結婚は、やはり町長からも答弁もありましたとおり、子供の出生数にも影響する問題です。大事な問題です。どうか、やはりこれからは結婚しやすい環境、その辺も含めて、移住・定住も関係しますけれども、ぜひとも強い対応で取組をお願いしたいと思います。

子供教育とスポーツ環境についてお聞きします。

総合教育会議において、第2次スポーツ推進計画策定の中で、中学校の部活動の中には既に地域移行している部があるという出席委員からの発言もあり、楽しくスポーツができる環境整備、底辺拡大、児童の体育活動には、保護者の経済面での負担軽減や送迎負担がないにもかかわらず、入部する児童が少ない。これは南小の校長先生の発言でございました。様々な意見から発言がございました。これに対して、町長から、部活動の地域移行は国の示す施策であり、しっかりやっていきたい。また、現有する町体育施設の活用か、場合により新しい施設の検討が必要かを引き続き考える必要がある、あわせて、スポーツには道具が必要、保護者負担がなくスポーツができるような施策が必要と発言されております。オリンピック選手として活躍された町長としては、どのような方向性を考えておられるのかお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** スポーツといっても様々ありますので、スキー、スノーボード、スキーもアルペンスキー、クロスカントリースキー共にですけれども、道具が必要になるというスポーツに関しましては、私も昨年、北海道の美唄市で、ヘッドジャパンというメーカーさんから180台のちびっ子用のスキーを譲り受けまして、それを市民スキー場に置いて、市民の子供たち、小学生が600人いるんですけれども、その子供たちが自由に使えるようにということで、まず第1期目として180台のスキーを提供するというのをさせていただきました。そういう道具をまず用意していくというのも一つの段階だと思いますし、南小の校長先生からも、道具があってもなかなか増えないんですよというところに関しましては、やはりいかにスポーツが面白いものだというふうに感じていただけるようなきっかけとなる場をつくっていくということも必要だと思っていますので、小さいお子さんたちが幼稚園の段階から、お試しでもちょっとできるというような場もつくりたいと思っています。

どうしても山ノ内町は、クロスカントリーにしてもアルペンにしても、やるとなったときに、

かなり競技性の高いハイレベルなところを目指すみたいな風潮がありまして、それはもちろん私の頃はそういう選手もいっぱいいましたが、実はやっぱりスキーとかクロスカントリーにしてもアルペンにしてもスノーボードにしても、レジャーという側面が大きいわけですから、そのレジャーとしての楽しむというスポーツ、それで競技として何かしらそうとか大変そうみたいなものを親御さんもお子さんも取らないような形での楽しいスポーツというものをしっかりと伝えていくような努力も必要になってくるんだと思っています。

あと、施設に関してですけれども、先ほど答弁でも申しましたように、体育館でできるスポーツもありますし、水泳のようにプールがなければできないスポーツもありますので、その辺のバランスを取りながら、山ノ内町にどういう施設があればどういうことができるのかというところで、先日の総合教育会議でもお話ししましたが、例えば新しいスポーツのスケートボードなんかに関しましても、公園にちっちゃいスケートボードパークをちっちゃくてもいいので整備していくことによって、子供たちが歩いてスケボーしに行けるみたいな、そういう環境もあっても良いんじゃないかとも思っていますし、いろいろな形で子供たちが日々外に出て楽しく遊んだりスポーツができるということを私としてはプッシュしていきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** 新規の体育施設の検討も含まれるというふうに私は理解しました。どうかこの辺は、財政も絡む貴重な問題です。また、未来の子供たちに残す貴重な財産ともなるわけですので、ぜひとも慎重な、かつ鋭意ご検討いただくことを要望させていただきます。

質問時間の関係上、次に（5）の「健康長寿日本一を目指す」についての関係を伺います。

まず、「町内公共交通網の再整備」とは、具体的に、例えば宇木地区の空白地域、それからデマンド交通、循環バス等もこの再整備の検討の中に含まれているのか、その点についてお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 総務課長。

**総務課長（小林広行君）** お答えをいたします。

総務課のほうとしましては、現在、楽ちんバスを運行しておりますけれども、それでは賄い切れない地域もあります。あるいはその楽ちんバスの止まる停留所、こういったところに歩いていけないという方もいらっしゃるというのは事実としてあるというのは承知しております。

それをどうやってクリアしていくかということになりますけれども、それにつきましては、現在考えているのは、各地域において、例えば区とかそういった団体におきまして、ジャンボタクシーのようなものを借りて、例えば買物に行くとか、お医者さんに行くとか、温泉に行くとか、そういったところで区、そして自己負担、それと町が支援してタクシーを運行するというやり方、それと先ほどデマンドというのが出ましたけれども、デマンド交通の基本は予約制でございますので、どこどこに何をしに行きたいというときには、そういった運行会社に予約をして、迎えに来てもらって行くというのが基本なんですけれども、それをやっていると効率

的にはあまりよくないということで、もうちょっと小さい範囲、例えば須賀川でいきますと、下須賀川でしたとすれば、今、二、三か所ですかね、停留所があるんですけども、それをもうちょっと小さいエリアをカバーして、そこにデマンド交通を走らせるというようなことをやりますと、停留所と言われるところまで歩いていくその距離、時間がすごく短くなるというようなこともありますので、その辺を今度しっかりと検討していきたいというのが今の考えでございます。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** 楽ちんバスについては、昨年10月にダイヤ改正をしていただいて、見直しもいただきました。9月の一般質問において、私も楽ちんバス、そして中野市の循環ふれあいバスにも乗車させていただいた感想などを含めて質問させていただきましたけれども、やはり町長の公約項目にありますとおり、中野市内の病院の運行検討など、これは課題が多いと思いますけれども、この辺についてお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 私も、須賀川地区の方々から、中野市に直接出られるバスがなくなって、楽ちんバスだと一度夜間瀬で乗り換えなければいけないという不便さも聞いております。そういう細かいニーズもどうにかして拾えないかと思っておりますし、楽ちんバスに関しても、よりちょっと充実させて、しっかりと町内全域を補完できるような体制をどうやってつくるのかということを引き続き庁内でも検討していきたいと思っておりますので、先ほどおっしゃっていたデマンド交通も含めて、様々な形で足を確保するという事は、引き続き重要課題だと思って取り組ませていただきたいと思いますと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** ぜひとも交通弱者が安心して移動できる手段、施策について鋭意ご検討いただくようお願いいたします。

次に、「スポーツと医療で健康長寿の町へ」は、どのような施策を考えておられるのかお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 「スポーツと医療で健康長寿の町へ」ということですが、しっかりとお年寄りがスポーツできるような環境をつくりたいなと思っております。それは子供のスポーツとはまた別にはなるんですけども、例えばですけども、先ほど話の出たプールの必要性に関しましても、お年寄りがリハビリも兼ねてプールで体を動かすというのは非常にいいと聞いておりますので、子供のプール環境を確保すると同時に、お年寄りの健康のためのプールの利用方法も含めた上で予算化できるのかなども含めて前向きに検討していきたいと思っておりますし、先ほどもお話ししたとおり、スポーツを通じて社会から分断されないような、そ

う仕組みをつくっていきたいと思っておりますので、今後も、ちょっと本当に具体的にはどうやってやるのか、どうやってお金をつくるのかということも含めて庁内で検討して進めてまいりたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** これは健康維持のためには、やはり私はスポーツを楽しんで、元気で長生きしていただく、これは最も大事だと思います。くわえて、やはり健診も大事だと思っております。やっぱり健康診断でがん等の早期発見をし、それが健診結果に基づいて適切な指導をしていただいたり、運動の推進ももちろんあります。がんの検診、あるいは健康診断の健診は、やはり早期発見はもとより、その後の医療費の削減にもつながるし、また健康でいていただくことが一番大事な問題ですけれども、この点について、健康診断の方策、これについては、エックス線の撮影から、ヘリカルCTの提案なども布施谷議員から過去の一般質問でありました。町長はこの辺の健康診断について、どのような見直し等を視野にされているのか、その点についてお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 私自身が、ちょっとまだ健康診断の中身についてそこまではまだ理解しておらず、大変申し訳ありません。ただ、おっしゃるとおり、早期発見というのが重要だと思っておりますので、今既にそれなりのことを町としてもやっているという認識をしておりますので、しっかりその辺は理解をして、足りないところがあれば充実させていくということで、もしかしたら地区への出向いての何かこういうことができないのかということも含めて、検討していきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** この件については、また他の議員からの質問が次の議会等であると思しますので、次に進めさせていただきます。

次に、（6）②の案内所再整備についてお伺いします。

具体的にはどのような構想をお持ちなのかお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 具体的には、湯田中駅での案内所をしっかりとさらに強化していくと。4月1日から観光連盟が湯田中駅に移動になりますので、そこで今よりは、今ももちろん人がいる案内もしてはいるんですけども、観光連盟がそこに席を置くことで、より充実した観光案内ができると思っておりますが、私のイメージとしては、もうちょっと時間も幅広く何かできないかなというふうに思っておりますので、例えばですけども、スノーモンキー号が動いている時間帯は誰かがいられるようにするとか、もう少し案内所としても機能するような、充実した機能を持たせるようなことができないかですとか、あとは例えばこれもまだアイデアベー

スではありますけれども、例えば各旅館さんの荷物を預かって、旅館のチェックイン前に着いたお客様が荷物を置いて町中を観光できるような、そういうシステムをつくるのですとか、観光客目線に立った観光案内所、ただ案内するだけではなくて、しっかりと来た観光客をサポートするという意味での観光案内所を充実させるというふうに考えております。

同じように、車で来た方に対しての観光案内所というものも基本的にはございませんので、そこをしっかりと充実させていく方法をどのようにしたらできるのかということを考えていきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** 町長から先ほど話がありましたように、長野電鉄湯田中駅ですけれども、本当に8時30分の頃の到着の特急電車のときに、私も先月、東京行く用事がありまして、その電車を利用させていただきました。駅員がいらっしゃらないんですね。それで、観光の目的の方も、まあ遅い時間ですから僅かにいらっしゃいました。二、三人はいらっしゃると。このようなときに、先ほどから話が出ていますとおり、湯田中渋温泉郷、志賀高原などの玄関口として、やはり案内も含めて問題はあるかと私は考えています。現状はその点について、町長はその現状についてどのような考えをお持ちかお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 先ほどお話しましたように、やはり時間外、時間外といいましても、役場の時間外という意味ですけれども、遅い時間に到着される観光客の方ももちろんいらっしゃいますので、観光連盟だけでは対応できないと思っておりますので、今後、それに対してどうやったら8時台、9時台に着くような方に対して案内できるのかとかも含めて、観光者目線ですっきりとその辺の充実をできる方法を考えていきたいと思っておりますので、これから対策を練って、しっかりと実行していきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** 湯田中駅到着の電車は特急は20時30分で終わりますけれども、その先、21時台、22時台、23時台もあります。そこまで全部カバーできないのは事実ですので、ある程度やっぱり特急電車、先ほど町長からご答弁いただきましたけれども、特急電車が到着する頃までは案内できるような形を、ぜひとも観光連盟や地域の皆さん等々の意見、要望なども踏まえて、慎重かつ適切な対応をお願いしたいと思います。

次に、それでは、時間の関係もありますので、小学校1校統合について再質問させていただきます。

この件は、他の議員の質問項目にありますので、今回は、私は統合準備委員会に関わる点などを主に、教育委員会に対して質問させていただきます。

まず、現在の進捗状況は、3月8日の議会全員協議会における質疑なき説明、3月16日の令

和5年度予算決算審査委員会で説明いただきました。私がお聞きしたいこととして、まずこの進め方に問題があるのではないかと考えます。整備計画（案）の段階で、1項教育総務費、2目事務局費、13節委託料の先ほどから話が出ております統合小学校建設調査設計業務に係る費用が計上、提案されています。この進め方についてどのように認識、かつ問題なしとお考えなのかお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 柴草教育長。

**教育長（柴草 隆君）** お答えいたします。

統合準備委員会の経過につきましては、ご説明申し上げたとおりでありますけれども、統合準備委員会はこれからもまた進めていきますし、来年度は専門部会を立ち上げて、それぞれの部会でいろいろな設備ですとか、交通の関係ですとか、協議をしていただく予定になっておりますけれども、それと並行しまして、予算にのせさせていただいたのは、地質調査、それから基本設計の関係をのせさせていただいております。それについては並行して進めていきたいというふうに考えております。

なお、湯本晴彦議員の中でもちょっとご答弁申し上げましたけれども、基本方針に基づきまして整備計画というものを、今、案を統合準備委員会の中でまとめていただいておりますので、3小の統合位置については中学校敷地、それから小中連携をさらに推進するということの、その基本的な部分については変わるものではありませんので、ご理解をいただきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** 委員会における意見集約などは、先ほども一部ご答弁いただきました。私が申し上げたいことは、部分的に委員会の全てを100%開示しろと、公開しろということをお願いしておりません。しかし、統合小学校建設に係る概算見込み費用は、一説では約20億円以上と言われております。そして、附帯する通学路の整備、もちろんそういうことも問題として浮上する可能性はあると思っておりますので、そうしますと莫大な予算が、費用が必要になるわけです。この町の一般会計予算、年度予算は約80億です。その4分の1以上を積み込まなきゃいけない。このことは、逆にこの町にとって大きな事業です。このような大事業に関わる進捗状況は、慎重かつ適正に町民等に開示すべきと考えます。この対応、この件についてお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 柴草教育長。

**教育長（柴草 隆君）** お答えいたします。

今後かかる事業費の関係でございますけれども、これにつきましては有利な補助金、また有利な起債等、いろいろ検討する中で進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** 先ほど申したとおり、やはり進め方は慎重かつ丁寧にやっていただきたい

と思います。

なお、統合準備委員会には、教育の皆様、それから私ども議会代表は参画されていないと理解しておりますけれども、その参画していない理由についてお聞きします。

**議長（高山祐一君）** 柴草教育長。

**教育長（柴草 隆君）** 参画していない理由ということでございますけれども、統合準備委員会につきましては、今いる各地区の代表の方、または保護者の代表の方、学校の代表の方ということで、特に議員さんまではお願いしなかったということでございますけれども、その中で、皆様への情報提供につきましてはホームページ等でもお伝えをしているわけでございますけれども、途中まではいろいろな議論がありましたので、特に準備委員会の中での資料等につきましては、ある程度まとまるまでは公表という形にはしていませんでしたが、今現在、第4回目以降につきましては、整備計画の案のほうがまとまってまいりましたので公表しておりますし、先日行いました第5回の内容、それから総合教育会議の内容につきましても、これからまた皆様に公表のほうをしていきたいというふうに考えております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** 私は、やはり教育行政に関わる大事な問題です。検討です。したがって、教育委員の皆様、町議会代表でもやっぱり当初から参画して検討に加わるべきだと、私はそのように理解しております。

もう1点確認しますけれども、この参画できなかった理由がもしあるんならお聞かせください。

**議長（高山祐一君）** 教育次長。

**教育次長（小林元広君）** 私のほうからお答えいたします。

統合準備委員会、21名のメンバーでございますけれども、基本的に教育委員会が統合準備委員会の意見をお聞きして、教育委員会が学校統合について決定をしていく、それについて議会のほうにも報告していく、町とも協議をしていく、そういう形を取っておりますので、あくまでも教育委員会が委嘱をして統合準備委員さんに参画をいただいたと、そういう位置づけでスタートしております。

ということで、初年度、令和4年度ですが、小・中学校のPTA会長さん、それから保育園の保護者会長さん、小・中学校の教職員代表として校長先生方、それから地域の住民代表として各地区、4地区の区長代表として正副区長会長さん、それから地域とともにある学校というのが今テーマになっておりますので、コミュニティスクールの関係のコーディネーターの方、それから主任児童委員さん、それから元小学校長ということで、合計で21名でスタートいたしました。ですから、教育に関わる、地域に関わる方の代表者ということでスタートを始めさせていただきましたので、そういう組織構成ということで御理解いただきたいと思います。

以上です。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1 番（塚田一男君） 教育委員さん、それから議会代表については、ここで何回も発言しても行ったり来たりの前に進まない議論になると思いますので、この件についてはあえてこれ以上は質問しません。ただ、この統合準備委員会については、やはり地域、保護者並びに子供たちの意見、子供たちの意見や要望にもしっかり耳を傾けて、丁寧に説明いただくことを強くお願い申し上げます。

さて、次に3の総合型地域スポーツクラブについてお聞きします。

まず、（1）の進捗状況は先ほどご答弁いただきました。

確認ですが、設立は令和5年度ということでしょうか。

議長（高山祐一君） 教育次長。

教育次長（小林元広君） お答えいたします。

令和4年度から設立準備委員会を立ち上げまして、クラブの設立目標は令和6年度ということですのでよろしくお願いします。

以上です。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1 番（塚田一男君） 当初のとおり、令和6年度スタートということで理解しました。

（2）の設立準備委員会での委員構成についてお聞きします。

この中の委員構成、現在、10名、11名でしょうか、その詳しい内容、例えばスポーツ推進委員は何名、体協会長ももちろんお入りになっていると思います。まあその辺ちょっと説明いただきたいと思います。

議長（高山祐一君） 教育次長。

教育次長（小林元広君） お答えいたします。

以前の塚田議員のご質問でもお答えいたしましたけれども、構成は11名でございます。町体育協会の会長、高山会長が委員長ということでなっております。それから、スポーツ推進委員長の方に副委員長、スポーツ推進委員さんが3名ですね、それから町出身のアスレチックトレーナーということで、関賢一先生にも入っていただいております。スポーツ少年団が2名の方、それから民間の関係者で1人と、あとソフトボールの関係者が1人、あと校長会の代表ということで山ノ内中学校の校長先生にも入っていただいております。それから、スポーツ系の地域おこし協力隊の北村隊員が委員ということで、現在は11名でございます。

以上です。

議長（高山祐一君） 塚田議員。

1 番（塚田一男君） 今お聞きしたとおり、この委員の中に町所有のソフト連盟が入っていらっしゃる。では、少年野球、学童の野球連盟、それから卓球代表、この2団が私、欠落すると考えますが、この点についてお伺いします。

議長（高山祐一君） 教育次長。



**教育次長（小林元広君）** お答えいたします。

基本的に、競技団体、全ての競技を入れるといいますか、参画いただくという考えもあるんですが、基本的に競技団体の取りまとめということでは町体育協会という組織がございますので、代表として入っていただいております。ですから、今規約上では15名以内となっておりますけれども、それで現在11名ということで、枠としましては15名以内ということでございますが、それは足りなければ規約を改正すればまだできますし、そこら辺の組織構成につきましては、設立準備委員会内部でご検討いただきたいということで、こちらは理解しております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** 山ノ内中学校野球部も、部員数の減少によって、この先を見越して、中野市内の中学校との合同についてもう既に検討しています。したがって、山ノ内は既に実質地域移行になっています。このように、野球の代表もやっぱり関連しますので、ぜひ入れてください。前の9月の教育次長の答弁でも、必要があれば、また委員会にお諮りして増員することもやぶさかでないというような答弁をいただいております。この点についてもう一度お伺いします。

**議長（高山祐一君）** 教育次長。

**教育次長（小林元広君）** お答えいたします。

中学校の部活動については、山ノ内中学校の先生も入っていただいて、この準備委員会の中でも議論は深まっておりますけれども、小学校の部活動という部分は、このスポーツクラブで全部カバーするという考えではございません。ですが、競技団体のそういう声があるということは、スポーツクラブの設立準備委員会のほうにもお伝えはしておりますので、そちらのほうで議論していただきたいと思います。あくまでもこのスポーツクラブですが、自立していくという組織を目指しておりますので、その中でご検討いただければと思います。よろしくお願ひします。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1 番（塚田一男君）** 15名ということですので、場合によっては規約改正も含めば対応できるという、私はそういうふうに理解しております。ぜひとも、野球、私も町の連盟の会長の立場でありますけれども、野球のみならず、やっぱり卓球の意見も聞いていただける、そのようなやはり大事な地域総合型スポーツクラブの発足になるわけですので、ぜひとも強く要望申し上げます。

さて、5年度は、6年度の設立に向けて地域の総合型スポーツクラブ検討における主な課題があると考えます。教育委員会として、その検討課題としてどのような項目、大きな項目で結構ですので、どんな項目があるのかお聞きし、私の質問を終わります。

**議長（高山祐一君）** 教育次長。

**教育次長（小林元広君）** お答えいたします。

総合型スポーツクラブの準備会ですけれども、4月発足以来、今9回、毎月1回ペースで9回進めております。その中で、今までの議事録はホームページのほうで公開されておりますので、ご覧いただきたいと思っておりますけれども、その中で、やはりクラブの理念ですとか、それから広報活動、それから基本的には、町長からも話がありましたが、スポーツに親しむというか、楽しんでもらえる仕組みづくりというふうなことで、様々な観点で議論いただいていると思っております。ですから、底辺を拡大するというのが一つの目的になっておりますので、今後、議論のほうは深まっていくのかなということで期待しております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 塚田議員。

**1番（塚田一男君）** すみません、私は検討における主な課題、問題点はどのようなものがあるのか、その問題点でどのように教育委員さんが認識されるのかお聞きしたかったんです。それについて今お答えいただけませんので、あえてまた発言させていただきます。

**議長（高山祐一君）** 教育次長。

**教育次長（小林元広君）** お答えいたします。

今、準備委員会のほうでは組織づくりというのを目指しておりますけれども、やはりアンケート等も実施しまして、その中で課題等も見えてきたと思います。課題、いろいろありますけれども、やはり組織づくりから始まりまして、それからやはりこれから指導者の育成というのも大きい課題になってくるかと思っております。そういうスポーツに親しむ機会を、場を設けて、それを指導していただける方というのは、これから非常に大きな課題になるのかと。それから、クラブ自体を運営していくという、それを回していくという財源的な確保というのも非常に大きい課題だと思っておりますので、そちらについてもまた議論をしていただければということで、よろしくお願ひします。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 1番 塚田一男君の質問を終わります。

ここで昼食のため、午後1時30分まで休憩します。

(休憩) (午後 零時41分)

---

(再開) (午後 1時30分)

**議長（高山祐一君）** 休憩前に引き続き会議を開きます。

---

**議長（高山祐一君）** 10番 西宗亮君の質問を認めます。

10番 西宗亮君、登壇。

(10番 西宗亮君登壇)

**10番（西宗亮君）** 10番 緑水会、西宗亮でございます。

午前の部から約30分ほどずれ込んでおります。できることであれば、私は多少なりともその遅れを挽回したいかと思っておりますので、一生懸命やらさせていただきます。

今日は、3月も20日となり、すっかり春めいてまいりました。これからは、マスクも自主規制になり、入学に就職にと、希望を胸に心を躍らせて、明るいあしたに向かって歩む季節となりました。

2月26日に当選され、3月6日から就任された平澤新町長に改めておめでとうを申し上げるとともに、今後は後戻りすることなく、広く町民に寄り添った、町民全体のための町政に励んでいただくことを大いにご期待申し上げるところでございます。

さて、18代議会も最後の一般質問となり、先輩議員諸兄を前に、大変僭越とは思いますが、私も3期12年、そして議員としても最後の一般質問になります。振り返れば、1年目の質問で湯田中駅構内と周辺整備について質問と提言を申し上げて以来、昨年の中学校グラウンドの抜本的整備や老朽危険空き家の除去に向けて、スピード感を持った具体的対策の取組など、多くの提言、要望などをしてまいりました。理事者をはじめ、管理職の皆様の深いご理解とご尽力により、課題とした事項の多くが対応されてきたことに心より深く敬意を表したいと思います。また、12年間の長きにわたり、力強く私を支えていただきました地元をはじめ、多くの皆様に心から感謝を申し上げ、通告に従い、質問をいたします。

1、平澤町長の選挙公約について。

- (1) 「まずは、町長給料30%カットから始める。」とあるが、30%の根拠は何か。
- (2) 給料カットはいつからいつまでを考えているのか。
- (3) 特別職職員への影響やバランスはどのように考えているのか。
- (4) 選挙公約に掲げた公約6件を実現するための具体的施策は。特に2番と5番の公約についてはどのように取り組んでいく考えか。

大きい2番、通学路交通安全について。

- (1) 直近の合同点検はいつ行われたか。
- (2) 合同点検結果により、危険箇所、問題箇所の状況は。
- (3) 危険箇所や問題点はいつからどのように改善していくのか。
- (4) 小学校統合を見据えて通学路の設定や危険箇所、問題箇所の検討と改善が必要となると思うが、どのように取り組む計画か。

以上、再質問は質問席にて行います。

**議長（高山祐一君）** 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

**町長（平澤 岳君）** 西宗亮議員のご質問にお答えします。

まず、質問事項1の平澤町長の選挙公約についての(1)「まずは町長給料30%カットから始める。」とあるが、30%の根拠は何かについてですが、まず給料カットするという理由です

けれども、一番の大きな理由は、コロナ禍で町の経済が疲弊している中で、まだ経済的にも立ち直っていない業種も多く、町の経済をしっかりと活性化するまで、私も身を削りながら頑張りますという私の覚悟を町の皆様にお見せするということが目的です。町長給与の金額目当てで町長選に出たわけではないということを知っていただきたく、公約に掲げさせていただきました。

根拠としましては、私にも生活がありますので、50%では大き過ぎますし、20%以下だと、覚悟を持って町の改革に挑んでいると思われないうい、30%にさせていただきました。

(2)の給料カットはいつからいつまでと考えているのかについてですが、詳しく私も手続をお聞きしましたら、議会に通さなければいけないということですので、6月議会に提案させていただきます、可決されればその後すぐにでもと考えております。

いつまでということですが、町の財政を上向きにできるまでと考えており、例えば、ふるさと納税などを倍増させるなどして町の財政に少し余裕が生まれるまでと考えております。

(3)の特別職職員への影響やバランスはどのように考えているのかについてですが、私的には特に影響はないと考えております。特別職職員へは今までと同じ環境で働いていただきたいと思っております。給料カットは、私のみの覚悟でございます。

(4)の選挙公報に掲げた公約6件を実現するための具体的施策は。特に2番と5番の公約についてはどのように取り組んでいく考えかについてですが、先ほどの塚田一男議員にお答えしたとおりですが、2番と5番というのは、子育てしやすいまちづくりと、健康長寿日本一を目指しますという公約だと思いますが、既にお答えさせていただいておりますので、省略させていただきます。

質問事項2の通学路交通安全について、4点のご質問ですが、通学路合同点検は、隔年で夏と冬に実施し、毎回数十か所の点検を実施しております。

詳細につきましては、教育長より答弁させていただきます。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 柴草教育長。

**教育長（柴草 隆君）** 西宗亮議員のご質問にお答えいたします。

2の通学路交通安全についての(1)直近の合同点検はいつ行われたかのご質問ですが、今年度は冬季の実施年度であり、雪の降る中、2月21日に実施をいたしました。

(2)合同点検結果により危険箇所、問題箇所の状況はとのご質問ですが、今年度は14か所の点検を行い、冬期間の点検のため、全箇所雪が関係する場所でありました。点検箇所については、歩道、交差点、歩道のない道路で、歩道については除雪要望、交差点については通行車両との危険回避、歩道がない道路については、除雪対応や蓋がされていない水路箇所に危険が生じるでした。

(3)の危険箇所や問題点はいつからどのように改善していくのかについてですが、歩道については除雪実施の要望でしたが、通行人数や歩道の狭窄により実施されていないため、道路

管理者に歩道除雪の実施を要望するとともに、地元ボランティアへの協力依頼や歩道の拡幅要望を地元から上げることになりました。

交差点につきましては、地元での注意喚起チラシの配布や、通行車両への注意喚起の看板設置等の検討、また歩道のない道路につきましては、除雪業者への道路際までの除雪協力依頼、水路については、地元より側溝整備の要望を上げているとのことから、今後、計画的な整備が実施される状況であります。

(4) 小学校統合を見据えて、通学路の設置や危険箇所、問題箇所の検討と改善が必要になると思うが、どのように取り組む計画かについてですが、来年度設置する統合準備委員会専門部会の通学安全部会で、通学路の問題や課題についても協議検討を行っていただく予定であります。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 西議員。

**10番（西 宗亮君）** それでは、再質問をさせていただきます。

よく目にしたり耳にしたりするのが町長給料カットと自主返納というような言葉、いろいろ耳にはしますけれども、目の当たりにするのは今回初めてかなというふうに思います。そんなところで、パーセンテージもいろいろでございますけれども、50%ではきつ過ぎる、20%では覚悟が示せないというようなことで、中を取って30%というような形になったのかなというふうに聞き取れました。まあそれはそれとして、ちょっと答弁の中で気になったのは、ほかの特別職の職員には影響を与えないというふうにお話しされましたけれども、そのとおり受取ってよろしいのでしょうか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** そのとおりに受け取っていただいて結構です。今回の30%カットについては、私のみのこととなります。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 西議員。

**10番（西 宗亮君）** 分かりました。ただ、先ほどちょっとお話しになられた、条例を6月ということの、6月議会にというようなお話ですけれども、ほかに何か方法を考えていらっしゃるんですか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 私も、大変申し訳ないのですが、詳しくまだそこまで手続のことを進めておりませんので、どのような手続をしなければならないかということに関して、これから庁内でもしっかりと総務課と話をしながら、正式な形で30%カットを進めるということで、私の認識としては、6月の議会に何かしらの形で提案させていただくということだと認識しております。

以上です。

議長（高山祐一君） 西議員。

10番（西 宗亮君） 分かりました。

私のつたない記憶の中では、公の人間、理事者、それから議員もそうですけれども、給料を一部自主返納する、あるいは一部カットするということに関しては、解釈が幾つかありまして、総務省の解釈のほうでは公職選挙法に抵触するというふうに言われているところがございます。そこら辺はご承知でしょうか。

議長（高山祐一君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 存じておりません。公職選挙法に引っかかるようなことはしたくはないと思っておりますので、そうならない方法をこれから総務課ともしっかりと協議の上、実行したいと思っております。決してできないわけではないと思っておりますので、ほかの首長も過去にやっているということですので、その方法をしっかりと勉強させていただいて、総務課と一緒にやっていきたいと思っております。

以上です。

議長（高山祐一君） 西議員。

10番（西 宗亮君） ぜひそのようにお願いしたいと思いますが、ちょうど選挙管理委員会書記長がお見えですので、書記長にお尋ねしたいんですけども、先ほど平澤町長は、条例改正を6月議会に提案するというふうにありましたけれども、町特別職報酬審議会との絡み、それから条例改正をして行うとするならば、特別職ひとくくりではなくて、特別職の誰というふうにして進めることができるのかどうかという、そこら辺の確認を書記長としてお尋ねしたいと思っております。

議長（高山祐一君） 選挙管理委員会書記長。

選挙管理委員会書記長（小林広行君） お答えいたします。

町長含めて、理事者等特別職の報酬につきましては、特別職の給与に関する条例を一部改正しなければならないということでございまして、それは町長の部分を改正すれば、それだけでほかのものは改正しなければ、町長だけが改正という形になります。

特別職の報酬審議会につきましては、今までも過去に何回かやっているんですけども、そのときは、私の記憶ですと、報酬を引き上げるときに、どのぐらい引き上げる、どの程度が適正かというときに報酬の審議会を開いておりますけれども、減額の場合は報酬の審議会は開かれていなかったというふうに考えております。

それと、公職選挙法の関係ですけれども、これは寄附であれば公職選挙法に抵触するということですので、一旦もらったものをお返しするという行為はできないということになります。したがって、今回のように条例で改正して、その改正された後の給与を収入とされるということは、これは違反にはならないというふうに理解をしております。

以上です。

議長（高山祐一君） 西議員。

10番(西 宗亮君) そのとおりのようなことも、私、調べた中では出ておりました。支給された給料等の一部を返還するのは寄附に当たるかという総務省のQ&Aの中のQのほうにあり、またあらかじめ一部を放棄することはどうかという質問に対して、いずれの場合も寄附に当たります。このような場合は、あらかじめ条例等の改正をしておく必要があります。でないと、公職選挙法違反になりますよということだと思いますので、違反にならないように、ぜひ研究しながらお願いをしたいと思います。

それと、もう一つは、他の特別職に影響はないというふうに断言されましたけれども、その特別職、複数人いるという形の中で、その中の1人がご自分の覚悟を示すことから給料カットに踏み出すというふうになったときに、他の特別職の職員の方はそのまま素直に、あ、そうですかというふうな感情になるかどうかということが、何となくしっくりいかないような気がするんですが、そこら辺は割り切ってお考えということになりますか。それとも、自分の信念、覚悟を貫くということでの進め方なのか、そこら辺のお考えをお聞かせいただきたいと思えます。

議長(高山祐一君) 平澤町長。

町長(平澤 岳君) ほかの特別職への影響ですけれども、あくまでもこれは私の信念というところで、私のみの30%カットということで考えておまして、教育長、副町長に関しましては今までどおりということで、全く何の問題もない私のほうは考えておりますので、このように進めさせていただきたいと思っております。

以上です。

議長(高山祐一君) 西議員。

10番(西 宗亮君) お気持ちよく分かりました。ただ、その中で、これたればの話で、こういうところであるのがよろしいかどうか分かりませんが、6月の定例会で上程された条例一部改正が否決されたとすれば、どうなりますか。

議長(高山祐一君) 平澤町長。

町長(平澤 岳君) あくまでも町と議会の関係は、町の提案を議会がチェックし、正すことだと思っておりますので、議会がもし否決するようであれば、それはふさわしくないということで、戻されたということになりまして、また別の形でしっかりと自分の覚悟を示す方法を考えなければいけないと思いますが、議会としてそのような機能がしっかりと働くということは当たり前のことだと思っておりますので、否決についても可決についても、議会の決定に従うということが基本だと私は思っております。

以上です。

議長(高山祐一君) 西議員。

10番(西 宗亮君) ただ、そこでちょっと心配、大変すみませんでした、先のことを想定じゃない、想像、たればみたいなことで質問いたしましたことについておわびを申し上げたいと思えます。ただ、そうやって仮に否決されたとしたら、平澤町長のこの公約のところだね、

平澤岳は、まずは町長給料30%カットから始めますということが大見出しで先にうたわれているんですね。これが思うようにいかなかったということになると、公約したと異なる結果になっちゃうかとも思うんですが、そこら辺はお考えになったことはありますか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 私のほうで議会にその30%カットを提案する際に、しっかりと議会の皆様に理解をしていただけるようなしっかりとした工夫、説明をさせていただいた上で提案させていただき、その上で判断を仰ぐというところで思っていますので、それが議会で否決されたからといって公約違反というわけではないと思っておりますし、6月の議会で否決されても、また次の議会があると思しますので、引き続き公約をしっかりと具現化するということも私の一つの仕事だと思っておりますので、そう考えております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 西議員。

**10番（西 宗亮君）** そうですね、選挙公約6項目上げられました。それを見て、あるいは聞いて、平澤岳氏に投票したということだと思んですけども、獲得された3,545票、少なくともその方々はこの選挙公約をよしとして平澤町長を信任したということになるかと思いません。1,250票もの大差をつけて当選されたということで大いに期待されるところでありますので、ちょっとつまづかないように、うまくそこら辺を相談しながら対応していただければというふうに思います。

それから、公約の中の2番、5番が特に私たちに直結するような感じになるんじゃないかなと思ってピックアップしたわけなんですけれども、2番目が子育てしやすいまちづくり、保育園、それから給食費の無料化、子供教育とスポーツ環境を整えますというようなこと、それから健康長寿日本一を目指しますということで、公共交通網の再整備、スポーツと医療で健康長寿の町へというようなことを訴えられております。その中で、5番の健康長寿日本一を目指すということで、町内公共交通網の再整備をしますというふうなうたわれております。今までの一般質問の中にも出てまいりましたし、ご答弁も伺っておりますが、町内には楽ちんバスをはじめとして、そういう公共交通網や何かがございます。そこの整合性をどういうふうにとってこの公共交通網の再整備に当たられるお考えなのか伺いたいと思います。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 今の質問にお答えします。

この町内公共交通網の再整備をいたしますという意味は、現在の楽ちんバス、運行しておりますが、午前中にもあったように、まだ通っていない地区があるですとか、停留所の数ですとか、使い勝手などをさらに向上していくということで、全く新しいものをつくるというわけではなく、楽ちんバスは楽ちんバスでしっかりと拡大し、サポートをしてしっかりと整備をしていくと。それに加えて、新たなデマンドタクシーのような、さらにお年寄りが使い勝手のいいような、ちょっとした診療所に行けるような足をつくるということで、プラスアルファでしっ



かりとサポートして体制をつくるということを私としてはイメージして書いております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 西議員。

**10番（西 宗亮君）** 今、ご答弁いただいたようなことは、とても大切なことだと思いますし、今までもそこら辺は議題、話題になって話し合われ、場合によってはテストも行われてきているんですね。それで、現在に至っているということになっておりますので、今以上、さらに前進、町民が多少なりとも楽になって、豊かな町になるように前進していくには、どこら辺に力を入れてやっていったらいいというふうにお考えですか。デマンド交通も実証運行をやったことがありますし、それから楽ちんバスについても、何度も地域との懇談を持って、ルートあるいは停留所を変えたりしてきていますので、そこら辺、今度具体的に前進させるにはどこら辺に力を入れてやっていこうというふうにお考えでしょうか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 西議員のおっしゃるとおり、楽ちんバスに関しても、今までいろいろな形で進化してここまで来ていると思います。ただ、今現状まだまだ、もっとこうしてほしい、ああしてほしいという声が地区から聞こえてきているのも現状です。ですので、引き続き、毎年毎年変わっていく状況において対応していくということと、楽ちんバスをしっかりと充実させていく、あとそれで取りこぼしが出るようなところに対して、様々な新しいアイデアでその補完をしていくというふうにして、しっかりと町民の声を毎年聞きながら、その変わっていく状況に対応できるような形だと思っておりますので、引き続きこれは一旦さらに改良したからこれでオーケーということはないと思っております、毎年しっかりと研究、改良を重ねていくべき案件かと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 西議員。

**10番（西 宗亮君）** 人間もそうですけれども、常に進化していく、常に前に進んでいくということが大切だと思いますので、ぜひそんなふうをお願いをしたいかと思いますが、ただ、聞き及ぶところ、長電タクシーが撤退をして、その業務を長電バスが受け継いでというふう聞いております。そうすると、楽ちんバスの運行に関しては、主体は町ですけれども、どこへ委託をしていくのがよろしいか、あるいは委託じゃなくて、直接もう町が運行するというようなことになるかどうか、そこら辺の考えはどんなふうにお思いでしょうか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 大変申し訳ありませんが、楽ちんバスが今誰が運行しているとかということをお私ちょっと存じていませんので、そこを総務課長に一旦お答えいただければと思います。

**議長（高山祐一君）** 総務課長。

**総務課長（小林広行君）** お答えをいたします。

先ほど西議員からありましたとおり、令和4年10月から、長電タクシーから長電バスにタク

シー部門を移行したということになっております。ただ、今までやっておりました長電タクシーの業務は、長電バスにて引き続き行っているということですので、現状、当面の間、当面の間というのは長電バスさんがタクシー業務をやらないというふうになるまでは、長電バスさんと一緒にやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 西議員。

**10番（西 宗亮君）** まだまだお尋ねしたいこと、どういうふうにお考えになっていらっしゃるのかというようなこと、細かいことまで合わせるとたくさんあるんですけども、とても時間内では解決というか、自分自身の解決には至りませんので、また何ぞのときにいろいろ教えていただければというふうにお願いをして、次の質問に移りたいと思います。

2番目の質問でございますけれども、通学路交通安全についてというところの中で、直近の合同点検は、先ほど2月21日に実施されたということでございました。実は、一夜漬けて恐縮だったんですけども、ここ1日、2日で町のホームページ、教育委員会のホームページを拝見しました。としますと、何を言いたいかという、まだホームページのほうがこれに更新されていないんじゃないかというの半分期待して、腹が黒いもんで、そういうことを期待しながらホームページを見たら、既にもう2月のが1か月もたたないうちに更新されているという状況で、大変驚きとともに関心、感服いたしました。ありがとうございます。

それで、ただ、比較にはなっていないんですよね。3年度の点検と4年度のこの2月27日に点検したものの点検項目、それが比較にはなっていない。夏と冬ですから、必ずしも比較というふうにはならないんですけども、分かりにくいのが、去年こういう問題だった、ここは対処できたよ、だけれどもこれはちょっと時間がかかるし費用もかかるし、長期でちょっと取り組んでいかなきゃいけないねということがどうなのかということが非常に分かりづらい。それと、当然のことなんですけれども、去年の8月に点検した場所と今年2月21日に点検された場所が同じところじゃないんですよね。常に、先ほどじゃないけれども、いろいろな面で進化していくからそうになっているのかあれなんですけれども、特にこうだったからこういうふうにしたよというふうにならなければいいんですけども、こうだったけれども、ちょっとうにやうにやとなっていて、次の分に入っちゃっているというふうになっているような気がするんですけども、そこら辺で課題の継続だとか何かというのは実際にあるのかどうか、それとまだ課題が解決されていないというようなのが前回、あるいは前々回と見て、改善がなされているのかいないのか、そこら辺の確認をちょっとお願いしたいと思います。

**議長（高山祐一君）** 教育次長。

**教育次長（小林元広君）** お答えいたします。

通学路の構造点検結果ですが、西議員、ホームページ、見ていただいてありがとうございます。ということで、このご質問をいただいて、私もホームページは見ていたんですが、やはりちょっとホームページの公表が、合同点検結果一覧表ということで一応公開はしておるんです

が、そうですね、隔年で、本年度は冬期間ということで2月に実施させていただきました。それで、3年度につきましては夏季のということで、隔年で夏、冬ということで結果を公表するというふうになっておるんですが、実際、ご指摘のとおり、その結果の場所、危険箇所の様子、それから点検結果、対策ということで、そういう表になっておるんですが、道路改良とかそういう時間と費用がかかる部分はまだ継続という部分がございますので、そうですね、前回の点検からどうなったという部分がちょっと欠けているようにも私も思いました。ということで、改善されている部分はあるんですが、ちょっとその公表の仕方も少し工夫は必要かなと思います。

ただ、今回、雪の降る中で点検させていただいて、非常に寒くて皆さん大変だったんですが、やはり警察の方、地元の方、道路管理者ということで、皆さん実際に雪の降っている中で点検ができたというのは、実際この雪の中を子供たちが歩いているんだということで、非常に有意義な点検ができたかなと思っております。

ということで、道路改良とかは時間がかかるんですが、その場で、宇木区でしたが、危険箇所を区民の皆さんにチラシで配布して周知をすとか、そういうことで地元でもできることはそうやって協力していただける部分があるというのは、それで実際もうやっていただいたというふうにもお聞きしております。ですので、やはり関係者で力を合わせて、知恵を絞って進めていくような形で今後も続けていければということで、すみません、答えになっていないかもしれないんですが、そのように感じました。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 西議員。

**10番（西 宗亮君）** 自覚、認識していただければ、近い将来、改善へ向けて動いていくというふうに思いますので、大変結構なことだと思います。ただ、毎年、実際には時期的には隔年というふうになっていきますけれども、大勢の方、そして多くの機関が一堂に会して、実際その場へ行って危険箇所の点検をされている。それで、問題点をピックアップしているということに対して、本当にありがたいことだというふうに頭が下がる思いです。

ただ、今回のホームページのところには地図が出ているんですね。ちょっと非常に細かくて見えづらいんですけども、宇木、ナンバー1からナンバー5、横倉、ナンバー1、本郷、ナンバー6、7、戸狩、ナンバー8、湯田中、ナンバー幾つというふうに出ているんですけども、中学校のところ、あるいは中学校の付近はご覧にならなかったんですか。

**議長（高山祐一君）** 教育次長。

**教育次長（小林元広君）** お答えいたします。

今回の点検では、中学校付近は点検はしておりません。今回、14か所を見ようということで設定して、皆さんで点検をしていただいたということで、ここに入っていない危険箇所もまだ多数あると思いますので、そちらについてもまた学校、保護者の皆さんのご意見といたしますか、そうですね、集約してまた違う形での点検、一応限られた時間で回るといって箇所数は限られ

てしまうということで、ご理解いただきたいと思います。

以上です。

議長（高山祐一君） 西議員。

10番（西 宗亮君） 冒頭のお約束を守るためには、ちょっと時間オーバーしてきちゃって、恐縮に思うんで、ちょっと早口でいきたいと思うんですけども、小学校の1校統合、中学校へということの件に関しては、多少今ぎくしゃくしているかなというふうに思っているのが実感でございます。そこで、東小学校、西小学校、南小学校、現在ある小学校の校門前には全部信号機がついているんですよ。ところが、今、中学校には校門を出たらすぐ道を横断するというような立地の中で、信号機はついていない。それで、令和8年度以降、まあ何年になるか、9年になるか10年になるかあれなんですけれども、そのごく近い将来に小学校がそこへ来るということになったならば、絶対にここは信号機が必要になります。ですから、それを今度の通学路交通安全部会のほうで、それもぜひ含めて今後検討していただきたいと思いますというふうに思います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

議長（高山祐一君） 10番 西宗亮君の質問を終わります。

ここで議場整理のため2時25分まで休憩します。

（休憩） （午後 2時13分）

---

（再開） （午後 2時25分）

議長（高山祐一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

---

議長（高山祐一君） 4番 山本岩雄君の質問を認めます。

4番 山本岩雄君、登壇。

（4番 山本岩雄君登壇）

4番（山本岩雄君） 4番 山本岩雄です。

午後の最後ということで、お疲れのところですが、もうしばらくお付き合いください。

第18代議員として最後の一般質問になります。今までの総まとめとしての質問になるよう努めてまいります。

コロナ禍に振り回された3年間でしたが、ここへ来て少しずつ収束の気配が感じられ、アフターコロナかなとも思います。ただただ第8波が訪れないようにと願わずにはおられません。

まず、平澤新町長には、ご当選おめでとうございます。若さや新しい観点でこれからの山ノ内町を前向きに引っ張っていただきたいと思います。「まだ間に合う」というキャッチフレーズには、新しい山ノ内としての心を感じます。そうした意味で、幾つか町長にも質問させていただきたいと存じますが、前置きとしてお伝えしたいことがあります。

私ごとですが、町長も出場された94年のリレハンメルオリンピックが開催されたノルウェー

に、その1年前の93年に、文部省短期教育研修視察へ訪れています。ハーマルにつくられたバイキング船の船底をモチーフにしたスピードスケート場はもう開業していたので、実際に滑ってみることができました。また、開閉会式が行われたジャンプ場はまだまだ工事中で、本当に開催に間に合うのかと心配したことを記憶しております。

本来の目的である教育視察では、視察した1つの学校として、ヨービックの小学校を視察しました。そこでは、小学校3年生が「スノーホワイト」、日本では「白雪姫」として伝えられていますが、その英語劇を披露してくれました。3年生でしたが、ネイティブかと思うような英語力に驚かされました。もちろん、ノルウェー語が日常では話されているのですが、どうして英語が堪能なのかをお聞きすると、経済活動に必要。なので、古くから小学校3年生から英語教育をしているとの答えが返ってきました。「アナザーストーリーズ」で紹介されたスウェーデンのABBAや、フィンランドの学生が開発したと言われるパソコンのOSとしても知られるLinux、これは発音はいろいろあると思うんですが、私はリニックスと読みます。北欧諸国の英語力の高さには驚かされます。また、スイスやデンマークなども訪れていますが、もう一つの教育視察の目的地のフランスでは、訪れたブドウ農家が説明されている途中で、英語で話しますかと聞かれてこられました。フランスではフランス語に対する自負があり、フランス語以外は話さないと聞いていたので、びっくりしました。その気になれば英語で十分意思疎通ができるとのことでした。まさに英語教育の重要性を認識したところです。

穂波温泉の小さな旅館が満館になっているということを知りました。英語の堪能なスタッフがいることで、外国からの宿泊客で満館になっているのだそうです。最近のDX、IoTといった、コンピューターを活用するのが当たり前になってきましたが、そのコンピューターも英語で動いているのです。英語教育の重要性を認識しているからこそ、一般質問でも小学校統合に関わって、教育特区として英語教育に力を入れることを質問させていただきました。ローカル紙のアンケートで、新町長も小・中学校の英語教育の強化を答えておいでです。これからの町の観光振興を考えていったときに、英語教育の強化は必要不可欠なことだと思います。町長のこれからの施策に大いに期待申し上げます。

話は変わりますが、大学時代、地質学をかじったことで、昭和60年に発生した長野市の地附山の地滑り調査に参加しました。そこで、土地の古老が、昔からあのところ、地滑りがあったところですが、あそこから上に家は造らなかつたもんだよと話されていたことが印象的でした。また、平成7年の豪雨により発生した信濃町の鳥居川・関川水系の氾濫災害調査では、流されてしまった田んぼを見てお気の毒にと声をかけたら、古老から、なーにや、昔に戻っただけさと返事が返ってきました。自然がつくった川の流れに人の手が加わり水田にしたのですが、自然は元の流れに戻したということです。つくづく変えることに対して自然の摂理に従うかどうか、人間の都合だけが先行すると必ずしっぺ返しがあるということを思い知らされました。

少し前置きが長くなりましたが、新しい町長の下、新しい山ノ内の姿を目指して議論できたらと思います。

それでは、通告書に基づき質問させていただきます。

1、これからの町政について。

(1) 「孫たちが帰ってきたくなる町へ」というキャッチフレーズへの思いと実現に向けての方策は。

(2) 選挙公報6つの公約について。

①最重要課題とその取組の仕方は。

②今までの町政のよい政策をどのように捉えているのか、山ノ内町のポテンシャルが高いところは何か。

③2番目の公約「子育てしやすいまちづくり」の“子供教育とスポーツ環境を整えます！”の具体は。ノルウェーのノルディック優勢に学ぶ点はないか。

④3番目の公約「稼げる農業へ」で、“労働力不足などの問題解決”はどのように取り組むのか。

(3) ローカル紙のアンケート回答について。

①英語教育の強化の具体は。

②小学校統合の見通しは。

2、農業振興について。

(1) 果樹共済掛金補助について。

①補助申請件数は。

②保険はどのようなものか。共済との違いやメリットは。

③果樹以外の農作物への共済・保険等の救済措置はあるのか。

(2) ブランド農業推進という項目で補助していくという令和4年3月議会の答弁について。

①それはどのような制度なのか。

②補助実績はどうなのか。

3、佐野遺跡保存活用計画について。

(1) 佐野遺跡活用計画はどのような計画なのか。

(2) 今後どのように進めていくのか。

4、現在進められている小学校統合計画について。

(1) 統合小学校の建物全体像はどのようなものか。

(2) 小学校のプールがなくなるが、小学校及び中学校の水泳学習はどのように行うと考えているか。

(3) 特別教室など中学校施設との共有はあるのか。

5、観光・農業立町としての環境への取組について。

(1) 山ノ内町の環境への取組の基本的な考え方は。

(2) 県の2050ゼロカーボン政策等、県との連携はどう進めていくのか。

以上です。

なお、再質問は、質問席にて行います。

議長（高山祐一君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

（町長 平澤 岳君登壇）

町長（平澤 岳君） 山本岩雄議員のご質問にお答えいたします。

まず、1のこれからの町政についての（1）「孫たちが帰ってきたくなる町へ」というキャッチフレーズへの思いと実現に向けての方策はについてですが、はっきり申しますと、経済の活性化が一番だと思っております。経済が活性化して、にぎやかな町にして、若い人たちや孫たちが帰ってきて、山ノ内町で生活したいと思えるような、そういう町にするということが目標です。そのためには、観光産業を立て直し、農業をブランディングして、新しい起業家たちをサポートして、よい新陳代謝が起きる町にしたいと思っております。午前中にもお話ししたような、住むところ、働くところ、そして教育というしっかりと3つの要素で魅力的な町にするということが必要だと思っております。

（2）選挙公報6つの公約についての①最重要課題とその取組の仕方についてですが、全てが重要ですので順番は非常につけにくいのですが、まず結果としてすぐにつながるのは、観光産業の活性化だと私は思っております。午前中もお話ししましたが、まずは町の観光産業が一丸となって、国内外へ山ノ内町をPRできるような体制をつくるということが必要で、山ノ内町を訪れた観光客が楽しい経験をして、また戻ってきたくなると思ってもらえるような環境づくりをしていきたいと思っております。

②の今までの町政のよい政策をどのように捉えているのか、山ノ内町のポテンシャルが高いところは何かという質問についてですが、観光面でも今までも様々なイベントなどを実行されていると思います。ABMORIですとか、志賀高原ヒルクライムというイベントがあると思いますが、そのようないいイベントは引き続きしっかりと継続、拡大をしていきたいと思っております。そして、子育てに関しても、子育て支援などでは山ノ内町は非常に手厚い支援をしているということですので、それらのよい政策は引き続き継続していきたいと思っております。

山ノ内町のポテンシャルが高いということですが、これは間違いなく観光資源と農業資源だと認識しております。

③の2番目の公約「子育てしやすいまちづくり」の“子供教育とスポーツ環境を整えます！”の具体はという質問で、ノルウェーのノルディック優勢に学ぶ点はないかについてですが、子供の教育に関しては、さっきの塚田一男議員の質問でもお答えさせていただいておりますが、ノルウェーのノルディック優勢に学ぶ点ということですが、私はアルペンスキーヤーですので、そこまでノルディックに関して詳しいわけではございませんが、個人的な意見を述べさせていただきますと、ノルウェーを含めた北欧3か国は、文化としてクロスカントリースキーが根づいております。犬の散歩でも買物でもクロスカントリースキーを利用している方たちが実際にいらっしゃいます。ノルディックスキーという語源自体が北欧の言葉ですので、文化的に歴史

がある国です。身体能力的に日本人が劣っているとはあまり考えたくはありませんが、注目を浴びる競技以外の社会的サポートがないというのが日本の特色でありまして、サッカーや野球、近年はジャンプチームなどには資金が集まるんですが、マイナースポーツとなってしまうているアルペンやクロスカントリー含むノルディック競技には強化資金が集まりにくい状況になっております。この辺を変えるのは1市町村では難しいのですが、山ノ内町ならではの選手サポート体制や仕組み、スキー・スノーボードクラブ的なものをしっかりと確立して運営していけば、アルペンもクロスカントリーもまだまだ可能性があると思っております。

④3番目の公約「稼げる農業へ」で、“労働力不足などの問題解決”はどのように取り組むのかについてですが、さきに塚田一男議員の御質問にもお答えしておりますが、町がマッチングするなどしてしっかりと労働力の解決の糸口というものを見つけていきたいと思っております。

(3)のローカル紙のアンケート回答について、①英語教育の強化の具体はについてですが、具体的なことはこれから教育関連の方々とお話ししていきたいと思っておりますが、常日頃不思議に思っておりますのが、日本では大学を卒業しても英語がしゃべれない方が多くいらっしゃいます。書いたり読んだりではできても、話せない方が多いのが現状です。英語は言語ですので、親しみ慣れることも必要だと思っております。インバウンドが増えれば、実践でも使える場所が増えると思っておりますので、そういう環境も活用しながら、実践で使える英語力を磨く方法を教育者たちと話し合いながら進めていきたいと思っております。

スロベニアやフィンランドなど、国民のほとんどが英語を話せる国と日本の違いは何だろうと考えてきたのですが、1つはテレビで放映される映画、ハリウッド映画などが吹き替えになっているか字幕になっているかという違いを発見しました。日本は、ほとんどテレビで放送される映画は吹き替えられているのですが、スロベニアやフィンランドは、普通にテレビでも字幕の映画を放映しています。そういうところにヒントが隠されているのではないかと考えております。

②の小学校統合の見通しについてですが、こちら湯本晴彦議員の質問でお答えさせていただいておりますが、私は単に反対しているわけではなく、より魅力的な教育をこの町に作りたいと思っている次第です。

質問事項の2の農業振興について、大きく2点のご質問ですが、後ほど農林課長から答弁させていただきます。

質問事項3の佐野遺跡保存活用計画についての2点のご質問ですが、当町には国史跡の佐野遺跡をはじめ、数多くの文化財がありますが、こうした文化財は歴史や文化を理解する基礎となり、次の世代に継承するために適切な保護管理と活用に努めることが重要と考えております。詳細につきましては、後ほど教育長から答弁申し上げます。

質問事項4の現在進められている小学校統合計画についての3点のご質問ですが、小学校統合計画については、教育委員会で統合準備委員会を立ち上げ、統合小学校整備に向け協議を行



っております。詳細につきましては、教育長より後ほど答弁させていただきます。

質問事項5の観光・農業立町としての環境への取組について、2点のご質問をいただきました。

1点目の山ノ内町の環境への取組の基本的な考え方はにつきましては、山ノ内町総合計画では、基本施策の一つとして「自然と人が調和する持続可能な郷土（まち）をつくる」と掲げ、ユネスコエコパークとして位置づけられている当町は、その理念に沿って町民や地域が理解を深め、様々な関係者・団体等と連携しながら美しい景観を保全し、受け継がれた自然や遺産に学ぶとともに、その恵みを生かして文化的、社会的、経済的に持続可能で社会貢献する町を目指しています。

さらに、循環型社会の実現のため、廃棄物の減量化とリユース、リデュース、リサイクルへの取組を継続し、環境を保全するための省エネルギーや地域資源を活用した新エネルギーの導入など、環境に優しい取組を進めるとともに、地域ぐるみの不法投棄監視体制の強化と環境美化意識の醸成に努めるなど、自然と共生した住みよいまちづくりを推進しているとしており、私としても基本的には同じ考えであります。

2点目の県の2050ゼロカーボン政策等、県との連携はどう進めていくのかについてですが、当町としては、令和元年6月の持続可能な社会づくりのための協働に関する長野宣言をはじめ、同年12月に長野県が行った気象異常事態宣言にも賛同してきていると聞いております。今後も県と歩調を合わせ、カーボンニュートラル推進を図ってまいります。

私からの答弁は以上でございます。

**議長（高山祐一君）** 農林課長。

**農林課長（宮崎弘之君）** 山本岩雄議員のご質問にお答えいたします。

2番の農業振興について、（1）果樹共済掛金補償について、3問のご質問ですが、①補助申請件数について。

令和4年度の補助件数は143戸です。

②保険はどのようなものか、共済との違いやメリットはとのご質問ですが、収入保険は、農業者自身で生産販売する農作物が包括的に全て補償の対象となるのに対し、果樹共済は、補償対象となる品目が限定されています。収入保険のメリットは、自然災害などによる収量減少を対象とした果樹共済と異なり、価格低下や品質低下など経済努力では避けられないリスクを全て補償の対象としていることです。

③果樹以外の農作物への共済、保険などの救済措置はあるかとのご質問ですが、農作物共済は、水稻、麦、畑作物共済は大豆、ソバを含む14品目、園芸施設共済の施設内農作物補償は、施設内で作付している品目の補償などの各種共済があります。

次に、（2）ブランド農業推進という項目で補助していくという令和4年3月議会の答弁について、2点のご質問ですが、ブランド農業生産振興対策事業は、先進的で意欲ある農業生産の振興を図るため、農業団体が行う優良品種早期産地化などの事業に要する経費に対し、補助

する制度です。補助実績ですが、今年度事業は約380万円となっております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 柴草教育長。

**教育長（柴草 隆君）** 山本岩雄議員のご質問にお答えいたします。

3の佐野遺跡保存活用計画について、（1）佐野遺跡活用計画はどのような計画なのかのご質問ですが、保存活用計画は、佐野遺跡の保存及び活用に組織的に取り組むための共通事項を明示し、その保存や整備に関する将来的な方針を明らかにするものです。所有者のみならず、地域にとっても目に見える形とし、確実な継承を図ることを目的としております。

次に、（2）今後どのように進めていくのかのご質問ですが、計画策定に必要な基礎資料となる測量図を作成するとともに、保存活用計画策定委員会において、専門家など有識者の意見を聞きながら、再整理作業の成果や過去の情報を基に、佐野遺跡の特徴を生かした計画にできるよう進めていきたいと考えております。

次に、4番の現在進められている小学校統合計画について、（1）統合小学校の建物全体像はどのようなものか及び（2）中学校のプールがなくなるが、小学校及び中学校の水泳学習はどのように行うと考えているのかのご質問ですが、建物全体像については、来年度設置する統合準備委員会専門部会の施設部会で協議いただき、その検討結果を設計業務に反映し、その中で全体像が見えてくると考えております。

プールにつきましては、水泳学習の今後の在り方について学校の意見や考えを聞く中で、施設部会、教育部会等で検討していきたいと考えております。

（3）特別教室など中学校施設との共有はあるのかのご質問ですけれども、中学校と小学校の共有については、体格差による机、椅子の規格の違いや、1単位当たりの時間数の違いによる時間割の調整が必要ですので、中学校の空き教室状況等を把握した上での共有教室や空き教室の有効利用の検討が必要と考えております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 山本議員。

**4番（山本岩雄君）** ありがとうございます。いろいろ教えていただきました。

ちょっといろいろな多岐にわたる質問になってしまったものですから……

**議長（高山祐一君）** 山本議員、すみません、マスクをはずしてください。

**4番（山本岩雄君）** 分かりました。

質問になってしまったものですから、順番をちょっと入れ替えていきたいなと思います。

農業関係、農業振興についてですけれども、実は私のいる南部地区は、農業が主で生活をしているというのがあります。昨年でしたか、降ひょう被害で、農家のお母ちゃんが、3ヶ所の畑で作っているズッキーニが全部、今日、明日収穫するのが全部全滅になってしまったということで、嘆いておいでのことを思いました。

今、いろいろなことを、補助とか保険とかというのを説明していただいたんで、いいとは思

うんですけれども、農業は自然相手のなりわいです。大自然の前では、農家個人の対応ではどうしようもない面があります。また、温暖化の影響で気候変動の影響も現れています。大雨だったり、逆に干ばつだったり、今までなかった異常気象現象が起きています。山ノ内でも、昨年の凍霜害や降ひょう被害で大きな損失をもたらしました。共済や保険などで対応することはもちろんですが、個人経営の農家にとっても、それさえ大きな負担になります。観光と農業を標榜する山ノ内であれば、農家や農業を守ることも施策として取り組んでいくべきだと思いますし、取り組んでいただきたいと思います。観光業については幾つか補償も出ていますけれども、農業についてもぜひお願いしたいなというふうに思います。

それから、次のことですが、佐野遺跡についてですが、佐野遺跡について何回か質問させていただき、木を切っていただいて、日陰だったところを解消していただくとか、前向きに検討していただいているということで、とてもうれしく思います。それで、今のご答弁の中で、将来的な方針を確かなものとして継承していきたいということで、非常にうれしく思います。

先日、ロマン美術館で開かれた「特別展示 山ノ内の縄文」でのイベント、縄文解説ギャラリーツアーに参加していました。今まで分かっていたつもりでしたが、解説の町田さんから数々のことを教えていただいたことで、ちょっとうれしい気分になりました。その中で、県内の全市町村、77市町村でも、縄文時代の草創期から晩期まで、全ての時代の遺物が1つの町から出土品があることは、ほかにはないんだよと話されていたことがとても印象的でした。また、考古学に携わった人なら、佐野式土器といただけで時代や土器の持つ意味合いが伝わるということも、一町民として改めて誇りに思いました。

ロマン美術館のフェイスブックにもありますが、ロマン美術館の展示に土器はとても似合うというふうに書かれております。常設展としてぜひ子供たちにも見てもらい、山ノ内のよさの再発見になればいいのではないかと考えています。今までの出土品の整理もままならない事態でしたが、こうして整理がなされ、展示などを通して町民や町外からの人にも目に触れることができることは、とても大切なことだと思います。これからもぜひ取り組んでいただきたいなと思います。

それから、最後の観光に関わっての環境への取組なんですけれども、基本的な考え方は総合施策やユネスコエコパークということで進めていくということであります。また、ゼロカーボンの政策についても、長野宣言、気象異常事態宣言でも行っているということで、積極的に進めていくというふうに言われていましたが、2050年CO<sub>2</sub>排出ゼロ宣言、ここではニセコや白馬が宣言をされています。これによって海外にアピールすることがとてもできたというふうに思っています。そういった意味で、世界首長誓約に宣誓して積極的にゼロカーボンを推進する考えはおありでしょうか、町長。お願いします。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** ゼロカーボン政策に関しましては、山ノ内町としても特にこれから率先して取り組んでいきたいと思っております。世界に対してどういう形で発表するかはまた今後検

討材料ではありますが、まずは山ノ内町の中にしっかりとそういう環境整備をしていくということで、公用車の在り方から踏まえ、今後検討していきたいと思っております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 山本議員。

**4番（山本岩雄君）** 県内32市町村が宣誓しております。この近隣でいくと、高山村とか小布施町、山ノ内は環境にも力を入れているぞということを世界に示す意味ではとてもいいことだと思います。アメリカのベイルが手を挙げた理由は、ユネスコエコパークの町だということが大きな理由になっておるといふふうにお聞きもしていますので、山ノ内のこれからの考えていく上で、環境問題に取り組んでいるということはとても大きな意味が、アピールのポイントになってくると思いますので、ぜひお願いします。

最後に、4番目の問題と一番最初の問題は、私、ある程度つながりがあると思しますので、まとめてその点についてお願いします。

今、プールがないということについては、これから考えていくということですが、これを質問した理由は、そういうことを分かっていない町民が結構ある。そういう中でこの議論が進んでいる。先ほど午前中の議論の中で、町長は教育計画を検討されると言ったんですが、今回予算に出てきたのはもう基本設計になっています。基本設計というのは、がわたの、もう建物を設計していくという状況になっているわけですね。そういうことに関して、やっぱりどんどん進んでいってしまったらまずいということで、1つプールという問題に関して、ちょっと質問させていただき、それに関わってこの質問をすることによって、町民に少しこの問題について考えていただきたい。前にも私、申し上げたんですが、北小と西小が統合するということに関しての意識に対して、今回の統合は町民の関心がとても低いというのが言えるんじゃないかなというふうに思います。

それから、特別教室のことに関してですけれども、特別教室は単なる学習場所の共有ということだけの意味合いにはとどまりません。小学校教諭は、担当するクラスの全ての教科を受け持ちます。私自身も音楽も担当しましたし、家庭科も担当しました。ですが、じゃ全ての教科に堪能かという、そうではないわけですね。現実には、例えば理科専科であるとか、音楽専科だとか、家庭科専科だとか、そういう形で今対応しているところもありますが、これは実は学級数によって決まってくるわけですよ。せっかく中学校の隣に小学校ができると、その専門性をリンクするということはとても大事なことだと思いますので、その辺のところもぜひ検討していただきたいなというふうに思います。

もう一つ、私が教師として初めて勤めた頃、不登校という言葉はありませんでした。また、不登校ということが子供の選択肢にはなかったんです。ですが、最近では保健室登校とか、ADHD、学習不応答といったことが語られるようになりました。これら全て子供たちが様々な問題をしょって学校に来ていると、しょっているということですね。子供たち一人ひとりの問題を、皆同じではないんだ、そこに目を向けなきゃいけないということの表れだと思います。

新しく造られる統合小学校がそういった課題に対しても目を向けられる、そういう学校にしてほしいなというふうに思いますので、ぜひそんな方向で考えていただきたいと思います。

さて、それでは一番最初の問題に戻りますが、孫というのは何か意味があるんでしょうか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** ごめんなさい、今の最後のは、孫について意味があるかということではしゃいますよね。もちろん息子とか若い人たちが帰ってきたくなる町ということの意味も含めたという意味ですけども、あくまでもやはり孫たち、次の次の世代までしっかりと帰ってきたくなるようなまちづくりというのはどういうものかということをしかりと考えていきたいと思っております、イコール、午前中にもお話ししたとおり、経済でも、住む環境でも、魅力あるまちづくりということをしていかなければいけないと思つての孫たちが帰ってきたくなる町というふうに位置づけさせていただいております。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 山本議員。

**4番（山本岩雄君）** ある程度、時間のスパンということもお考えなのかもしれませんが、帰ってきたくなるという文言は、その反面は帰ってきたくないというふうにも受け取れます。その場合の帰ってきたくないと思わせてしまうものは何だとお考えですか。

**議長（高山祐一君）** 平澤町長。

**町長（平澤 岳君）** 大抵の子供たちは、ここの町に高校がありませんので、高校から外に出るとか、就職したらもちろん働くということだと思つてんですが、比較的かなりの子供たちが1回外に出るという経験をしていると思つています。その上で、働く、住む、あと例えば結婚して子供を育てるということを考えたときに、山ノ内町というものが選択肢に入つてこない、なぜならば、ここには働く場所も住む場所もないからということになっては人が戻つてこないというところで、孫たちが、まあ息子たちでも娘たちでもいいんですけども、若い世代が1回ここで育つた子供たちがここのよさを知つた上でまた帰ってきたくなるという町にしたいという思いでございます。

以上です。

**議長（高山祐一君）** 山本議員。

**4番（山本岩雄君）** そうなんですよね。でも、帰ってきたくないという思いがないということではないということだと思つています。山ノ内はみんな好きですよ、子供たち。私、南小の地域探検を手伝ってくれということで、一緒に子供たちと歩きました。夏、7月の暑いときですね、戸狩まで行って、あの上り坂、また戻ってくるわけですが、もう汗びっちょり、体力のない子供はどんどん遅れていく、そんな中で教室、学校に戻つた子供たちから、それからどんどん学校の中、日陰の中に入るかと思つたら、グラウンドで待っているんですよ。頑張れつて。みんながそろりまでそこにいるんですよ。そういう子供たちです。ですから、そういう子供たちが山ノ内に住みたくないということではない。いられないという状況があるということ

す。

山ノ内のよいところとか特色とかよく言われますが、それって何だと思いませんか。私はまさに山ノ内だと思いますよ。何かというと、森林が88%あります。それで、あと残り12%のところに人が住んで、町が、道路があり、家があり、お店がありというのが山ノ内の特色なんです。これ、中野市行ったらあらゆるところに住んでいますよ。12%のところに山ノ内町民が住んでいる。だから、隣近所がよく見えているんですよ。4地区だとよく言いますが、そう離れているようだけれども、つながっているんです。さっき、上で待っているというのがありましたけれども、山ノ内の子供たち、山ノ内の人たちはそうやってつながりを持っている。これが山ノ内の大きな特色だと思います。ほかの地域では見られない。

例えばリンゴ創設者ということで、中野市の東山公園に碑が立っていました。その中に1人だけ、たしかヤマモトツタヒロさんだったという名前があるんですけども、佐野の生まれの人で、最後は湯田中で暮らしています。また、昔から杓野女と佐野男といった言葉もある。4地区は離れているようでも互いに深く結びついている社会があったということがあります。目の前の経済状況を優先するがために、それを阻害してきたのではないかということです。交通網の整備の仕方だったと思います。かつて、私は山ノ内の交通網はイソギンチャク交通だと言いました。国道292号から入って国道292号から出ていくんです。抜け道がないんです。先回、先日、山ノ内マスタープランの説明があったと思いますけれども、高山村へ抜ける道路、栄村に抜ける道路、ほとんどが冬季は通行不能なんです。だから、入って出るしかないの。そのために、そういう道路状況がこの問題の根源にあるんじゃないかと思います。

菅の一部の人々の檀家は間山なんですよ。檀家とかお寺はね。つまり、昔の人は、一山超えたら間山、中野なんですよ。そういうことを考えると、菅から、今のでいくと、山超えることなくトンネル造れば、3キロ、5キロのレベルなんですよ。それで、トンネルですから除雪も要りません。3キロ、5キロで高山村とつながります。そうすると、あの集客力の高い小布施からお客を呼べます。なぜなら、小布施には宿泊力がないからです。また、富士通の旧工場に象徴されるような工業力が須坂にはあります。そして、また須坂インターを周辺を開発するという商業立地としての可能ポテンシャルは物すごい高い。となれば、通えますからね。通えば、帰りたくないじゃなくてここに住みたいという思いがそのままつながると思います。給食費や子育ての優遇措置などを考えておいでですけども、そういった独自の政策を打ち立て、まさに自然豊かな、水のおいしい、人が優しい山ノ内に住みたいという人たちを増やすことは可能だと思います。

そういうふうな町政をぜひお願いします。まだ間に合うと町長さんは言われました。その新しい変革にとっても期待をしていきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

議長（高山祐一君） 4番 山本岩雄君の質問を終わります。

議長（高山祐一君） 以上をもって本日の会議を閉議し、散会します。

ご苦労さまでした。

（散 会）

（午後 3時07分）